

加賀山第1～3地点・古見<sup>こみ</sup>第14・16地点古窯跡

発掘調査報告書

—— 農村基盤総合整備パイロット事業湖西地区加賀山工区発掘調査報告 ——

平成2年度

1991

静岡県西部農林事務所  
静岡県湖西市教育委員会

## 序 文

ここに農村基盤総合整備パイロット事業湖西地区加賀山工区事業に伴います発掘調査報告書が、整理完了されて刊行できますことを喜びますとともに、直接発掘に関係された皆様や静岡県西部農林事務所などの関係機関のご苦勞に対し厚く感謝申し上げます。

今回の報告は、昭和63年から調査を行い3ヵ年で整理報告を行うという、長期にわたった調査でした。発掘調査では、窯跡14基、住居跡2軒、土坑4基を調査しております。湖西市は、ご案内のとおり古窯跡が多く、その数では国内屈指と聞き及んでいますが、近年の急激な開発の中で徐々にその数が減ってまいりました。今後は、記録保存ばかりではなく保護保存に努め、後世に郷土の遺産として残してまいりたいと考えます。

本報告書を通し、大方の学究の諸氏が研究の資とされると共に、一層のご指導をいただければ幸甚であります。一端を記して、刊行の辞とします。

平成3年3月

湖西市教育委員会

教育長 守田住夫

## 例 言

1. 本書は、農村基盤総合整備パイロット事業湖西地区加賀山工区事業に伴い、昭和63年度から平成2年度にかけて湖西市教育委員会が、静岡県西部農林事務所および国の補助金を受けて実施した発掘調査報告書である。

2. 発掘調査体制は、以下の通りである。

調査主体者：湖西市教育委員会 山本祐一（前教育長）・守田住夫（現教育長）

調査員：後藤建一（主任主事）、高橋一敏（主任主事）、石川浩久（主事）

岡本聡（新居町教育委員会）

事務局：吉田建二（社会教育課長）、相沢惇夫（社会教育課長補佐）

菅沼攻（前文化振興係長）、伏見廣志（現文化振興係長）

発掘作業員：加藤明、加藤房次郎、森岡正男、菅沼孝治郎、岡部元次、鈴木佐吉、池田勇、

菅本光雄、清水一二三、本馬秋男、白井栄、飯田秀雄、中畑昭二、山本武、

佐藤静雄、伊藤協三、森屋貫一、藤田芳春、中島金平、岡田五、竹上孝夫、

豊田花子、豊田澄江、佐原秀子、岡田典子、居沢貴弘

整理作業員：蛭川智子、袴田喜久恵、山本真弓、鈴木寿恵、木原正江、豊田育子、

山本幸子、鈴木和子、吉田文吉、柴田荒吉、小池庄太郎

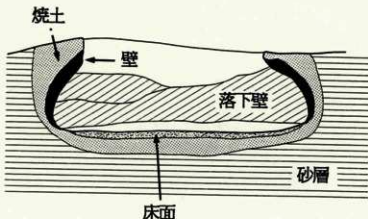
3. 遺構の測図は、古見第16地点を後藤、古見第14地点を石川・後藤、加賀山第1地点を高橋、加賀山第2地点を岡本・石川、加賀山第3地点を石川が行った。写真撮影は、それぞれの測図者が行った。遺物の実測、写真撮影及び遺構遺物の浄書は、後藤が行った。なお、遺物実測図内の矢印は篋削りの際の粒子の移動方法を表し、遺物測図の断面黒塗りは須恵器、白抜きは土師器を表す。また、遺構測図の図柄は、下図による。

4. 本書の執筆および編集は、調査員の総意のもとに後藤が行った。

5. 調査に関するいっさいの資料および遺物は、湖西市教育委員会が保管、管理している。

6. 調査に関する問い合わせ先

〒431-04 静岡県湖西市吉美3268番地 湖西市教育委員会社会教育課 ☎053(576)4793



# 総目次

1. 調査経過	(3)
(1)調査位置 (2)調査経緯と経過	
2. 加賀山第1地点古窯跡	(6)
(1)1号窯 (2)2号窯	
3. 加賀山第3地点古窯跡	(9)
(1)1号窯	
4. 加賀山第2地点古窯跡	(9)
(1)1号窯 (2)2号窯 (3)土坑 (4)1号住居跡 (5)2号住居跡 (6)灰原	
5. 古見第14地点古窯跡	(20)
(1)1号窯 (2)2号窯 (3)1号土坑 (4)2号土坑 (5)3号窯 (6)4号窯 (7)5号窯 (8)6号窯 (9)7号窯	
6. 古見第16地点古窯跡	(26)
(1)1号窯 (3)2号窯 (4)土坑 (5)灰原	
7. 出土遺物について	(31)
8. まとめ	(59)

## 挿入図版目次

第1図 位置図	(1)
第2図 周辺遺跡分布図	(2)
第3図 遺跡周辺地形図	(4)
第4図 加賀山第1地点全体図	(6)
第5図 加賀山第1地点1号窯実測図	(6)
第6図 加賀山第1地点2号窯実測図	(7)
第7図 加賀山第3地点1号窯実測図	(8)
第8図 加賀山第2地点全体図	(10)
第9図 加賀山第2地点1号窯実測図	(11)
第10図 加賀山第2地点2号窯実測図	(12)
第11図 加賀山第2地点土坑実測図	(13)
第12図 加賀山第2地点1号住居跡実測図	(14)
第13図 加賀山第2地点1号住居跡カマド実測図	(15)
第14図 加賀山第2地点1号住居跡遺物出土状態	(15)
第15図 加賀山第2地点2号住居跡実測図	(16)

第16図	加賀山第2地点2号住居跡、遺物出土状態・カマド実測図	(17)
第17図	古見第14地点1・2号窯全体図	(18)
第18図	古見第14地点1号窯実測図	(19)
第19図	古見第14地点2号窯実測図	(20)
第20図	古見第14地点1号土坑実測図	(21)
第21図	古見第14地点2号土坑実測図	(22)
第22図	古見第14地点3～7号窯全体図	(22)
第23図	古見第14地点3・4号窯実測図	(24)
第24図	古見第14地点5～7号窯実測図	(25)
第25図	古見第16地点全体図	(27)
第26図	古見第16地点1号窯実測図	(28)
第27図	古見第16地点2号窯実測図	(28)
第28図	古見第16地点土坑実測図	(29)
第29図	古見第16地点土層断面図	(30)
第30図	加賀山第1・3地点、加賀山第2地点出土遺物実測図(1)	(32)
第31図	加賀山第2地点出土遺物実測図(2)	(33)
第32図	加賀山第2地点出土遺物実測図(3)	(34)
第33図	加賀山第2地点出土遺物実測図(4)	(35)
第34図	加賀山第2地点出土遺物拓影図(5)	(36)
第35図	古見第14地点出土遺物実測図(1)	(37)
第36図	古見第14地点出土遺物実測図(2)	(38)
第37図	古見第14地点出土遺物実測図(3)	(39)
第38図	古見第14地点出土遺物実測図(4)	(40)
第39図	古見第16地点出土遺物実測図(1)	(41)
第40図	古見第16地点出土遺物実測図(2)	(42)
第41図	古見第16地点出土遺物実測図(3)	(43)
第42図	古見第16地点出土遺物実測図(4)	(44)
第43図	古見第16地点出土遺物実測図(5)	(45)
第44図	古見第16地点出土遺物実測図(6)	(46)
第45図	古見第16地点出土遺物実測図(7)	(47)
第46図	古見第16地点出土遺物実測図(8)	(48)

#### 表目次

表1. 出土遺物観察一覧表	(49)
---------------	------

表2. 出土遺物観察一覧表 .....	(50)
表3. 出土遺物観察一覧表 .....	(51)
表4. 出土遺物観察一覧表 .....	(52)
表5. 出土遺物観察一覧表 .....	(53)
表6. 出土遺物観察一覧表 .....	(54)
表7. 出土遺物観察一覧表 .....	(55)
表8. 出土遺物観察一覧表 .....	(56)
表9. 出土遺物観察一覧表 .....	(57)
表10. 出土遺物観察一覧表 .....	(58)

### 写真図版目次

図版1. A) 加賀山第1地点作業風景	B) 加賀山第1地点完掘状態
図版2. A) 加賀山第1地点1号窯1次面	B) 加賀山第1地点1号窯2次面
図版3. A) 加賀山第1地点2号窯	B) 加賀山第3地点1号窯
図版4. A) 加賀山第3地点1号窯階段部	B) 加賀山第2地点全景
図版5. A) 加賀山第2地点1号窯	B) 加賀山第2地点1号窯内遺物出土状態
図版6. A) 加賀山第2地点2号窯	B) 加賀山第2地点土坑
図版7. A) 加賀山第2地点1号住居跡	B) 加賀山第2地点1号住居跡遺物出土状態
図版8. A) 加賀山第2地点2号住居跡	B) 加賀山第2地点2号住居跡遺物出土状態
図版9. A) 加賀山第2地点作業風景	B) 古見第14地点と古見第16地点遠景
図版10. A) 古見第14地点	B) 古見第14地点1号窯階段部
図版11. A) 古見第14地点2号窯	B) 古見第14地点3,4,5,6,7号窯
図版12. A) 古見第14地点3号窯	B) 古見第14地点3号窯床面状態
図版13. A) 古見第14地点4号窯	B) 古見第14地点4号窯遺物出土状態
図版14. A) 古見第14地点7号窯	B) 古見第14地点7号窯階段部
図版15. A) 古見第16地点灰原範囲	B) 古見第16地点全景
図版16. A) 古見第16地点1号窯	B) 古見第16地点1号窯階段部
図版17. A) 古見第16地点2号窯と土坑	B) 古見第16地点2号窯階段部
図版18. A) 古見第16地点2号窯前庭部	B) 古見第16地点Dライン灰層状態
図版19. 加賀山第1地点・同第2地点出土遺物(1)	
図版20. 加賀山第2地点出土遺物(2)	
図版21. 加賀山第2地点出土遺物(3)	
図版22. 古見第14地点出土遺物(1)	
図版23. 古見第14地点出土遺物(2)	

- 図版24. 古見第14地点出土遺物(3)
- 図版25. 古見第16地点出土遺物(1)
- 図版26. 古見第16地点出土遺物(2)
- 図版27. 古見第16地点出土遺物(3)
- 図版28. 古見第16地点出土遺物(4)
- 図版29. 古見第16地点出土遺物(5)
- 図版30. 古見第16地点出土遺物(6)
- 図版31. 古見第16地点出土遺物(7)

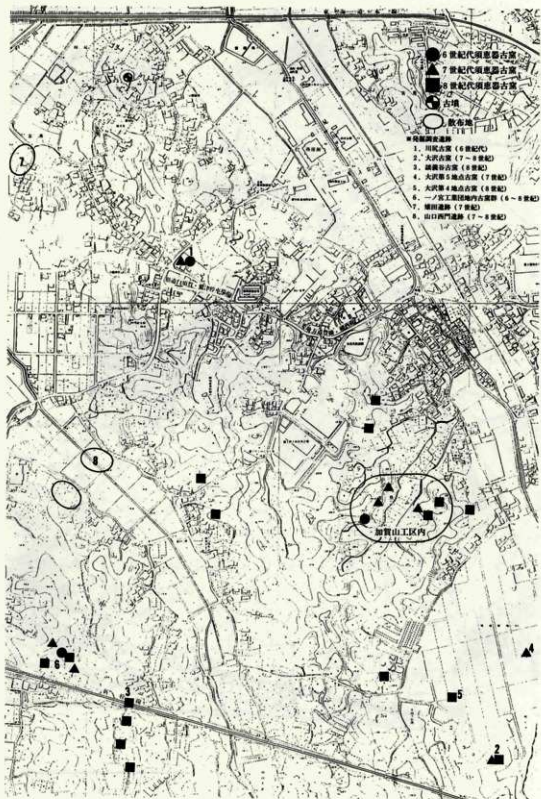




浜  
名  
湖

第1図 位置図





第2図 周辺遺跡分布図

# 1. 調査経過

## (1)調査位置

湖西市は浜名湖の西岸に位置し、愛知県豊橋市に隣接する静岡県西端の市である。総面積は55km<sup>2</sup>ほどで、東西5.8km南北10.6kmの南北に細長い市域に、4万2千人ほどが住んでいる。

地形地質は、北西部の赤石山系から延びる弓張山脈の山塊、南部に広がる洪積台地および丘陵、そして東側の浜名湖に面する沖積地とに大別できる。山脈は、標高を450mから320mと徐々に低くし、県境の主尾根から静岡県と愛知県の東西方向に支尾根を延ばしている。地質は西南日本構造線の外帯に属し、秩父古生層の珪岩、砂岩、粘板岩で構成される老年期地形である。南部の台地は、天伯原台地と呼ばれ、西の渥美半島まで広がる。地質は、第四紀洪積世の高位段丘礫質堆積物を基礎とし、更新世以来の後背地の隆起によって成立している。台地は、北に向かって次第に低くなる逆傾斜の地形で、浜名湖に注ぐ大小河川の浸食によって、狭長な丘陵となっている。丘陵の南端は、太平洋の荒波に浸食された標高70mほどの海食崖となり、渥美半島まで続いている。

今回調査を行った農村基盤総合整備パイロット事業湖西地区加賀山工区は、古見川と山口川に挟まれた丘陵地の一角にある。丘陵のほぼ真ん中を、遠曲ヶ谷と呼ばれる大きな谷が北東から南西に向かって入り込み丘陵を南北に分けているが、調査地はその谷の北側の小谷に位置する(第1図参照)。周辺には古窯跡が多く分布し、調査されている古窯跡が多い(第2図参照)。丘陵の先端部一帯には、集落のNo.7 雄田遺跡や古窯関連遺跡のNo.8 山口西門遺跡が点在している。

## (2)調査経緯と経過

昭和62年10月に静岡県西部農林事務所から農村基盤総合整備パイロット事業湖西地区加賀山工区内における埋蔵文化財の取り扱いについて、湖西市教育委員会へ協議があった。教育委員会では直ちに、分布調査を行い結果5ヶ所の古窯跡を確認し協議資料とした。以後、数回に渡り両者は取り扱いについて協議を行った。昭和63年1月の協議結果、昭和63年度と昭和64年度にかけて発掘調査を行い、昭和65年度に報告書を刊行することとした。

昭和63年度は他の発掘調査との関連で年度当初より行えず、昭和63年10月31日まで吉美中村遺跡E地点の発掘調査、重複して10月1日から12月24日まで山口第17地点古窯跡の発掘調査を行っている。加賀山工区内の発掘調査も、山口第17地点古窯跡に重なる昭和63年12月1日から平成元年2月22日まで行い整理作業を3月25日まで行った。調査員



第3図 遺跡周辺地形図

の担当配置は、吉美中村遺跡の発掘調査を後藤・高橋・石川が行い、残務調査と引き続き整理作業を高橋が担当した。山口第17地点古窯跡については後藤・石川が担当し、残務調査を石川が行った。加賀山工区については後藤が担当したが、古見第16地点の一箇所を調査したに止まっている。窯2基と土坑1基を検出し、灰原を完掘した。

平成元年度は、年度当初から一之宮工業団地内の発掘調査が緊急に飛び込んだ。日程調整を行った結果、8月までに加賀山工区内の発掘調査を終了し、一之宮工業団地内の発掘調査に着手することとなった。このため、担当の後藤・石川だけでは足りず、吉美中村遺跡の整理担当していた高橋と新居町職員の岡本氏に応援を求めた。平成元年5月9日から8月31日まで加賀山工区内の発掘調査を行い、平成2年3月24日まで発掘調査に平行して整理作業を行った。平成元年9月からは、一之宮工業団地内の発掘調査を行っている。

平成元年度は、古見第14地点から発掘調査を開始し、窯2基と土坑2基、灰原を調査した。古見第14地点については、後に新たに窯が新発見されている。谷を隔て北側丘陵の加賀山地点に入り、丘陵先端部の散布地にトレンチを配し試掘調査を行った。試掘調査では遺構の検出はなく、土器破片が数点採取されたに止まった。加賀山第1地点では、灰原が削られていたものの、窯2基が検出された。加賀山第2地点は、段々のミカン畑であったので、検出された窯2基と住居跡2軒はいくらかの破壊を受けており、灰原はごく僅か残るばかりであった。

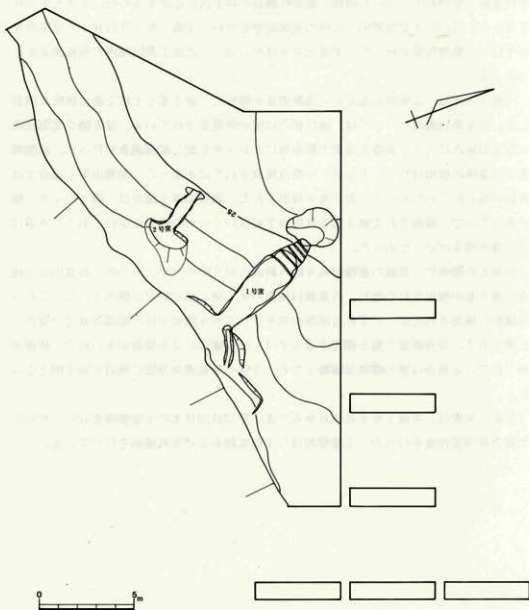
調査も終盤頃に、造成の重機が入り込み斜面を削り始めたが、その際に加賀山第3地点の窯1基が検出された他に、古見第14地点の先で窯5基が新たに検出された。これらは偶然に検出されたが、いずれも灰原が削平されており踏査では、確認されていなかった窯である。分布調査で窯を確認する大半は、灰原確認による場合が多いので、灰原が削られている場合は窯の確認は困難となる。今後の分布調査方法に検討を残す例となった。

平成2年度は、平成2年6月18日から平成2年12月22日まで土器整理を行い、平行して報告書図版作成を行った。土器整理後に土器実測および写真撮影を行っている。

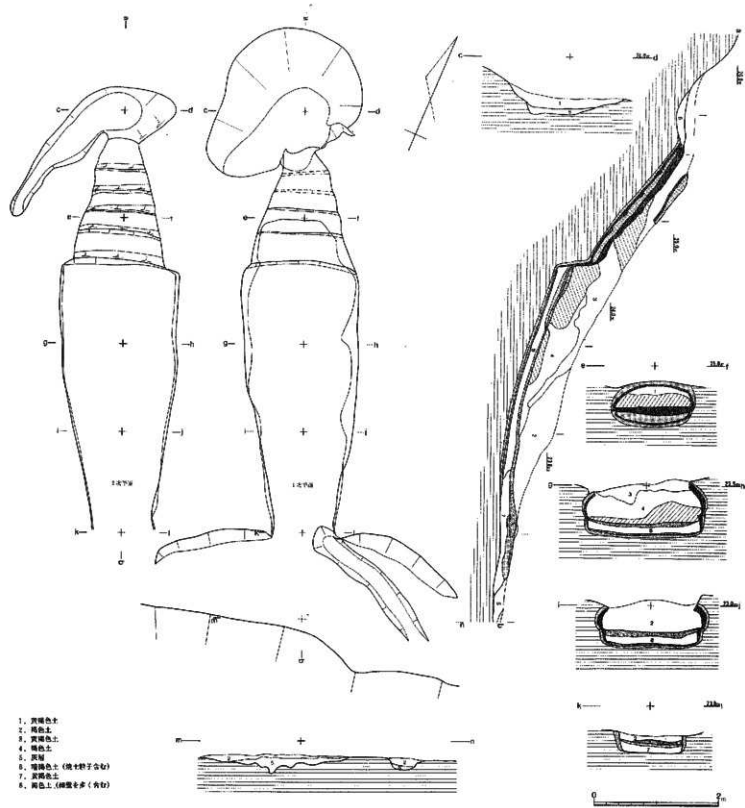
## 2. 加賀山第1地点古窯跡

北東に延びる支丘陵の南斜面に位置している。窯は2基検出されたが、灰原は畑の削平により失われている。尾根や周辺斜面にもトレンチを配したが、遺構は検出されなかった。遺物は窯内の埋土層より出土しているだけである。2基の窯の前後関係は、明らかではないが、さして時期差はないと考えられる。

### (1) 1号窯



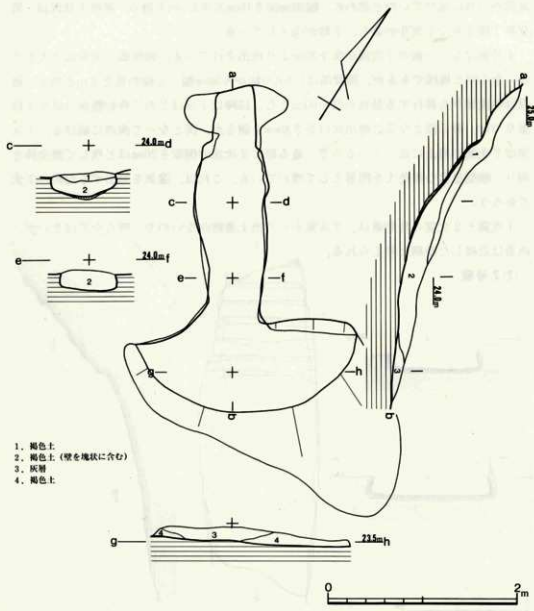
第4図 加賀山第1地点全体図



第5图 加贺山第1地点1号燕窝测图

窯は前庭部下半を失うだけで、良好な保存状況であった。主軸方位は、22度30分ほど西に振れ、残存長9.6mを測る。窯は砂層の地山に造られ、焚口から燃焼部、焼成部、階段部と内側全面に粘土を張っている。床面は、さらに砂を敷き詰めている。

焚口幅は1mほどで徐々に幅を広げ、焼成部最奥で1.8mの幅となる。焚口から焼成部最奥までの長さは4.6mほどとなる。燃焼部と焼成部の境は、床面が平坦から上り始める焚口から1.6mほどの位置となろう。焼成部床面は、15度から20度と角度を急とする。側壁は内彎しつつ立ち上がり、天井部はドーム状となる。床面と側壁いずれも修復は認め



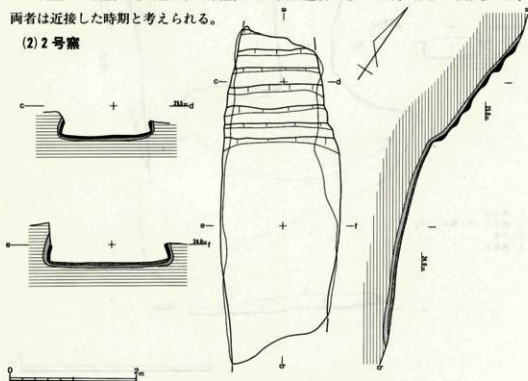
第6図 加賀山第1地点2号窯実測図

られず、4cmほどの厚さに粘土を張っている。階段部は、1.8mの幅から60cm幅へと縮め長さ1.9mを測る。焼成部から移行する最初の段を50cmとし、以降は7cmほどの三角形断面の段を2段張りつけており、もう2段張りつけた痕跡があるので、元々5段を数えることができる。傾斜角度は、40度を測る。天井部が一部残存し、高さ30cmないしは20cmを測る。煙出部は、長さ2m幅2.2mの楕円形を呈する摺鉢状となっている。壁は地山の砂層が熱を受け、焼土と化している。天井は無く素掘りの状態であった。前庭部は煙の削平により破壊を受け、側壁は失われており床に溝を残すだけである。溝は土坑状の前庭部から外に延びていたと思われ、幅30cm深さ10cm長さ2.5mを測る。窯埋土状況は、営窯終了後まもなく天井が落ち、土砂が流入している。

1号窯はもう一面の2次面が床下20cmより検出されている。燃焼部、焼成部の大きさは、全く同じ規模であるが、階段部は1.4mの幅から50cm幅へと縮め長さ2mを測る。階段は焼成部から移行する最初の段を60cmとし、以降は7cmほどの三角形断面の段を4段張りつけ、計5段となる。煙出部は長さ80cmを測るが、溝となって南西に延びる。1次窯は2次窯の真上に造っているのので、造る際に2次窯の側壁を20cmほど残して窯全体を削り、細壁を含む褐色土を間層として埋めている。これは、湿気を除去するための工夫であろう。

1次窯と2次窯の時期差は、2次窯からの出土遺物がないので、明らかではないが、両者は近接した時期と考えられる。

## (2) 2号窯



第7図 加賀山第3地点1号窯実測図



1号窯より4mほど離れて位置している。残存長3.5mの小規模な窯である。主軸方位は、32度30分ほど西に振れている。短期間の操業であったためか、壁は剥げ落ちて焼土面を残すのみである。

焚口幅50cm、焼成部最大幅80cm、長さ2mを測る。床面は最大傾斜で40度ほどとなり、床面は剥げ落ち焼土面となっている。煙出部は、長さ40cm幅1mの楕円形となり、素掘り状態となっている。前庭部は半円形状で、幅2.4m長さ1mとなる。遺物は、窯埋土層より陶鍾破片が数点出土しているのみである。窯の規模は、極めて小さいので1号窯の補助窯とも考えられるが、陶鍾のみを出土しているので陶鍾専用であったかもしれない。

### 3. 加賀山第3地点古窯跡

#### (1) 1号窯

ブルドーザーが斜面を削った際に、発見された古窯跡である。北東に延びた支丘陵の南斜面に位置している。窯の上半部と下半部は、すでに失われ残存長は5.5mを測る。主軸方位は、33度西に振れ、残存長は3.5mを測る。

焼成部の最小幅は1.6mで、徐々に広げて1.9mほどを測る。床面の傾斜は15度ほどで、階段部になると40度の急傾斜となる。階段部は7段確認され、幅1.8mから徐々に狭くなる。最初の段より高さ7cmほど、段の間を約20cmほどとして、まさに階段状に立ち上がっていく。側壁は、湾曲し立ち上がる。窯埋土層より、合子状蓋環が出土している。

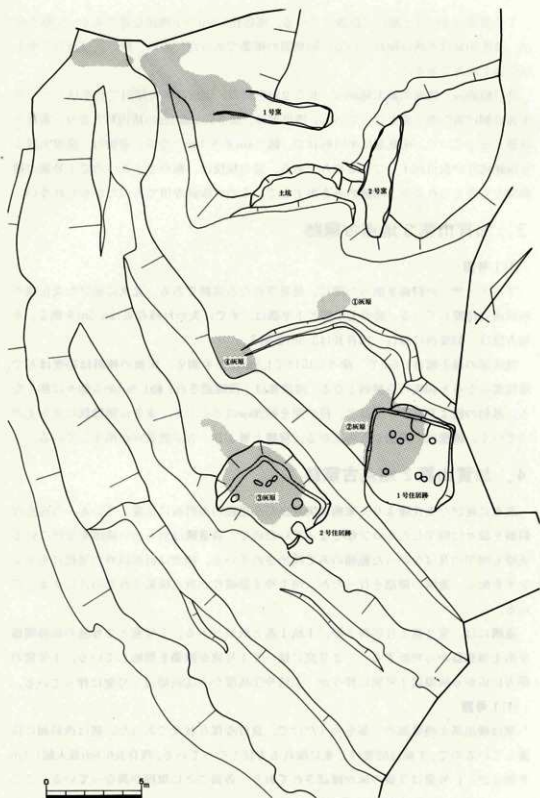
### 4. 加賀山第2地点古窯跡

北東に延びた支丘陵より、東南に突き出た小尾根の南斜面に位置している。当地点は、斜面を段々に削平したミカン畑となっていたので、各遺構は何らかの破壊を受けている。灰原も削平の及ばなかった範囲のみで検出されている。調査は斜面以外の尾根にもトレンチを配し、遺構の確認を行ったが、焼土や土器破片が数点採集されたのみに止まっている。

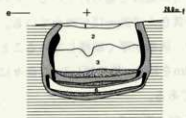
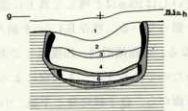
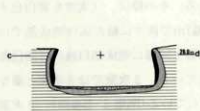
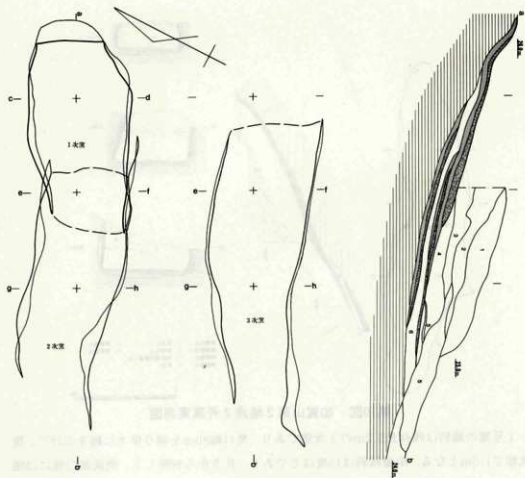
遺構には、窯2基と住居跡2軒、土坑1基と灰原がある。1号窯と2号窯の前後関係を出土須恵器から判断すると、2号窯に続いて1号窯が操業を開始している。1号窯の前方に広がる灰原は1号窯に伴うが、土坑や①灰原から④灰原は2号窯に伴っている。

#### (1) 1号窯

窯は煙出部と焼成部の一部を失うだけで、良好な保存状況であった。窯は西斜面に位置しているので、主軸は62度ほど東に振れる方位となっている。残存長6.6m最大幅1.6mを測るが、1号窯は3面の床が確認されており、各面ごとに規模が異なっている。ここでは、まとめて操業当初から順に述べよう。



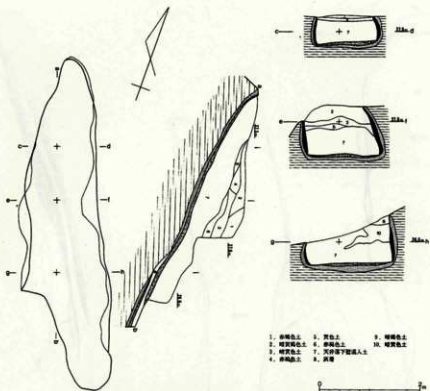
第8图 加賀山第2地点全体图



- 1. 灰褐色土
- 2. 暗黄色土
- 3. 天井下壁面土
- 4. 暗黄色土
- 5. 灰褐色土
- 6. 灰白色土



第9图 加賀山第2地点1号窯実測图

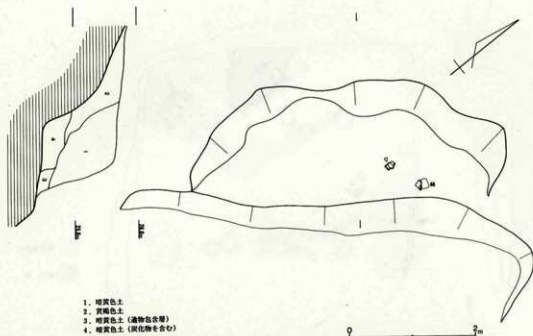


第10図 加賀山第2地点2号窯実測図

1号窯の最初は残存長5.2mの3次窯であり、焚口幅80cmを測り徐々に幅を広げて、焼成部で1.5mとなる。床面傾斜は15度ほどである。長さから判断して、焼成部以後には階段部が接続していたのであろうが、1次窯によって失われている。2次窯は、1次窯の側壁を10cmないしは20cmほど残して真上に造られている。その際に、3次窯を黄白色土で埋め床面を張っている。残存長4.5mを測り、焚口幅1mで徐々に幅を広げ焼成部では1.4mほどになる。床面傾斜は、15度ほどである。3次窯と同様に焼成部以後には階段部が接続していたのであろうが、1次窯によって削られている。2次窯では3次窯と重なるあたりの床面から、合子状坏身と平瓶、小鉢が出土している(図版5-B参照)。2次窯の構築方法は、前述した加賀山第1地点1号窯の様相と同様である。1次窯は、3次窯と2次窯に重ならず、それらの階段部を壊して斜面上方に延ばし造られている。その際に、3次窯の床面傾斜に沿うように、2次窯床面を暗黄色土で20cmほど埋めている。埋まりきらない2次窯の側壁をそのままにしてはいるが、灰層が厚く堆積していることから、前庭部として使用していたようである。残存長3.3mを測り、焚口幅1.1mで徐々に幅を広げ焼成部で1.9mとなる。床面傾斜は、15度ほどである。

灰原は、窯の下方斜面に長さ10m幅4mにわたって広がっている。

(2) 2号窯



第11図 加賀山第2地点土坑実測図

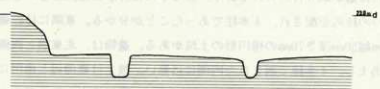
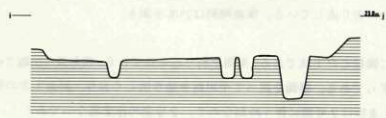
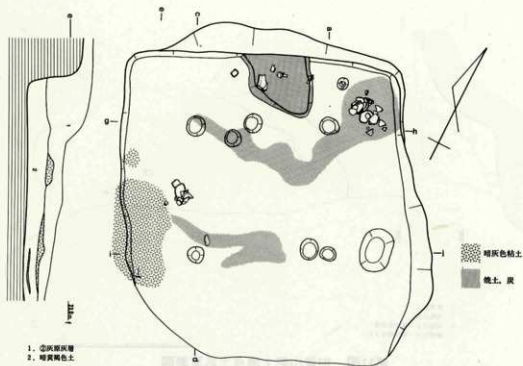
2号窯は、焼成部下半部と煙出部が失われ、残存長6.6mを測る。長さを推測するに、①灰原付近までとすると9mないしは10mほどとなろう。主軸は、19度西に振れている。焼成部の最大幅は1.6mを測るが、徐々に幅を狭めて窯尻に至る。全体にずん胴であり、階段部はまったく見られない。床は下方部で2面確認されたが、1次床面は2次床面の上半部を削り新たに張り直している。床面傾斜は25度を測る。

### (3) 土坑

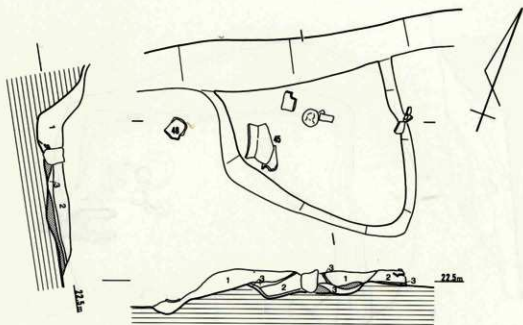
2号窯の西側に隣接した土坑である。南側を削り取られている。残存長5m幅2mを測り、床面はほぼ平らである。斜面を削って平坦面を造り出しており、斜面上方の壁高は1mを測る。出土遺物は2号窯に伴う時期なので、2号窯の作業場なのであろう。

### (4) 1号住居跡

2号窯より9mほど下方に位置している。主軸は30度ほど西に振れている。壁は比較的よく残るが、南壁は失われている。全体に方形を呈し、幅4.4m長さ5mほどを測る。住居北側壁の中央には竈が取り付けられており、真ん中には方形に径20cmないしは30cm深さ30cmほどの4つの柱穴が配され、4本柱であったことが分かる。東隅には貯蔵穴と思われる、長さ70cm幅50cm深さ70cmの楕円形の土坑がある。遺物は、北東隅と西側および竈から土師器が出土し、4本柱で囲まれた内側には無い。焼土は竈周辺と南側に広がっている。竈の残存状態は悪く、幅1m長さ80cmほどを測る。竈は焼土と炭を混在する黄色土より成り、真ん中に支脚を置いている。



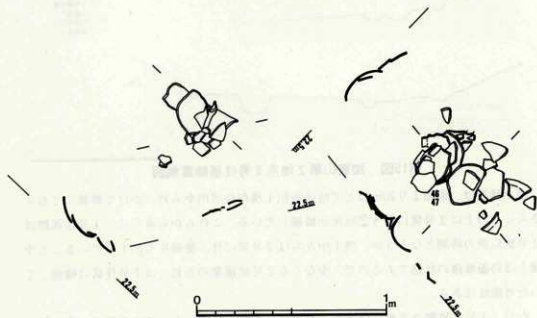
第12図 加賀山第2地点1号住居跡実測図



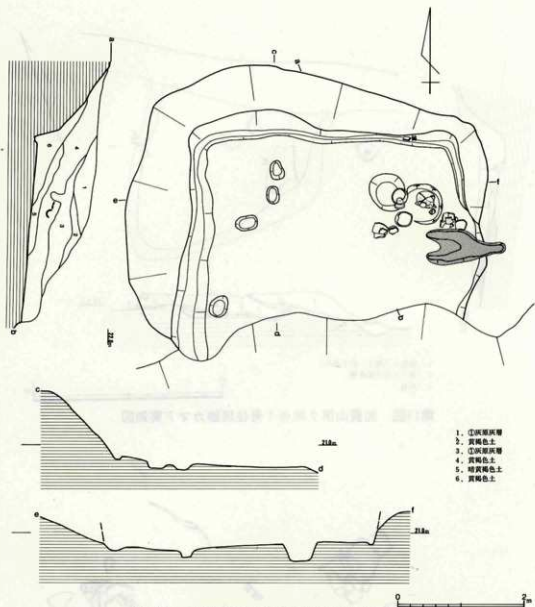
1. 黄色土 (焼土、炭を混在)
2. 焼土と炭の混在層
3. 灰層



第13図 加賀山第2地点1号住居跡カマド実測図



第14図 加賀山第2地点1号住居跡遺物出土状態

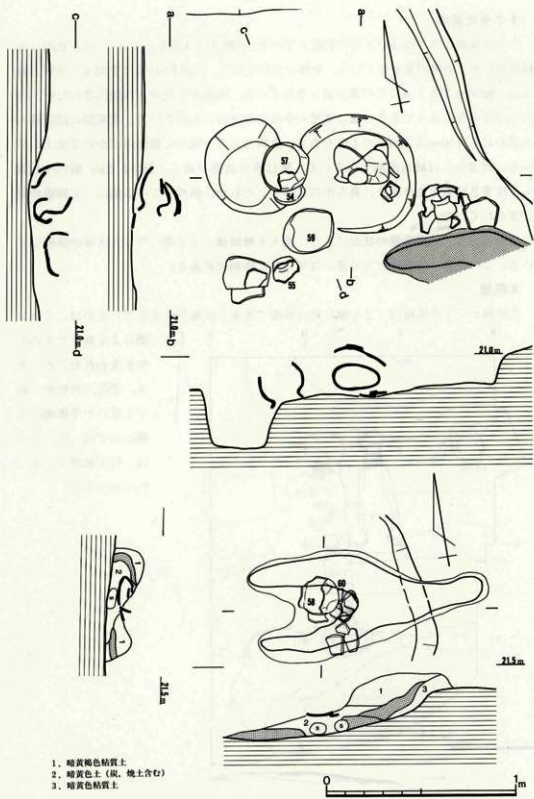


第15図 加賀山第2地点2号住居跡実測図

埋土状況は、床面より20cmほどで暗灰色粘土塊が住居内から外にかけて堆積しており、さらにその上に2号窯に伴う②灰原が堆積している。これらから直ちに、1号住居跡は2号窯以前の時期となろうが、埋土中からは2号窯に伴う瓦破片も出土していることや、埋土は斜面堆積の状態であるので、少なくとも2号窯操作の当初には1号住居は機能していた可能性はある。

なお、1号住居跡の北西には溝が巡り平坦面を形造っている。この平坦面に②灰原が広がっているので、作業場として利用されたかもしれない





第16図 加賀山第2地点2号住居跡、遺物出土状態・カマド実測図

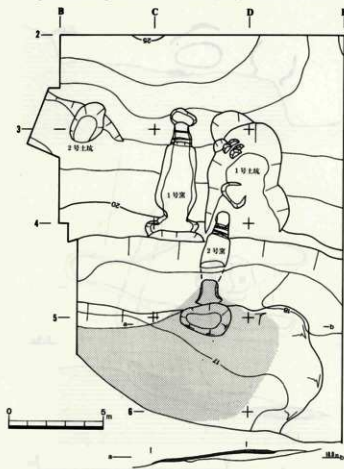
### (5) 2号住居跡

1号住居跡より2mほど下方に位置している。主軸はほぼ北方向である。残存状況は比較的良いが、南側が失われている。全体に方形を呈し、一辺4.5mほどを測る。住居内側には、幅20cm深さ5cmほどの溝が巡らされている。床面から穴が4つ検出されたが、柱穴とはならないようである。竈は東壁の中央に取り付けられている。北東隅には貯蔵穴と思われる径60cm深さ30cmの土坑がある。遺物はこの土坑から竈周辺にかけて出土している。周溝からは砥石が出土している。竈は残存状態が良く、長さ1.25m 幅55cmを測る。暗黄色粘質土より成り、真ん中に支脚とした石が2個残っている他に、土師器の甕が置かれていた。

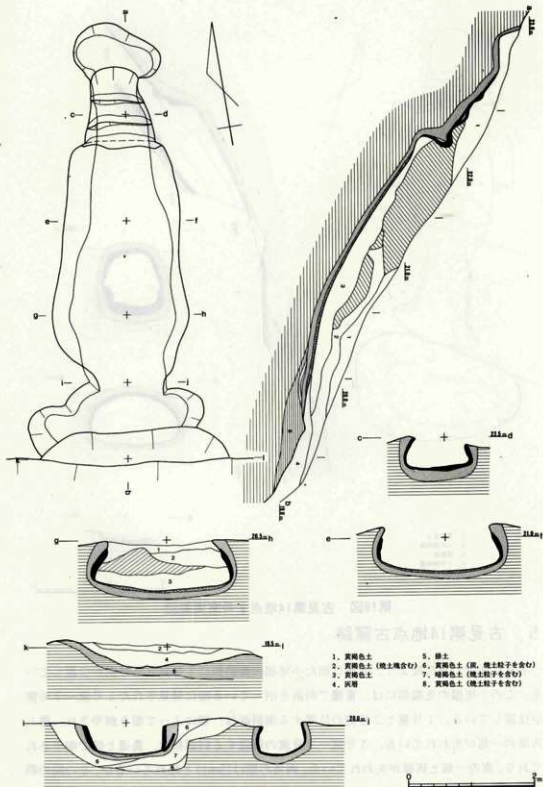
埋土状態は、斜面堆積の状況にあり、流入土堆積後に2号竈に伴う③灰原が堆積している。このため2号住居と2号竈には明らかに時期差がある。

### (6) 灰原

①灰原から④の灰原は、2号竈に伴う灰原である。灰原が点在しているのは、ミカン畑による削平でその大半が失われたためである。②③の灰原が、削平を受けた平坦地にも係わらず残っていたのは、住居跡埋土であったためである。

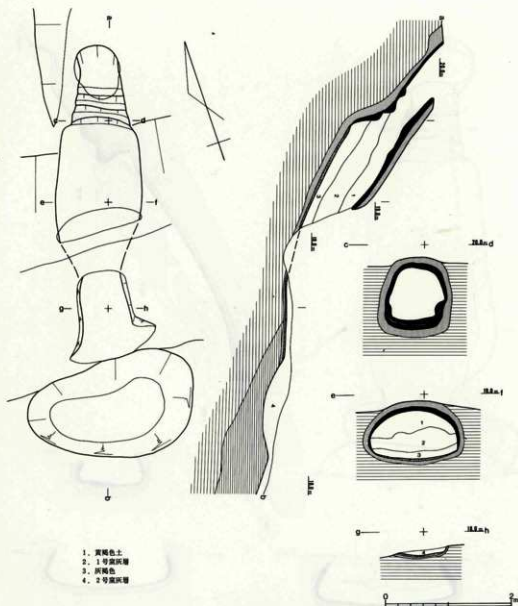


第17図 古見第14地点1・2号竈実測全体図



第18图 古見第14地点1号窯实测图

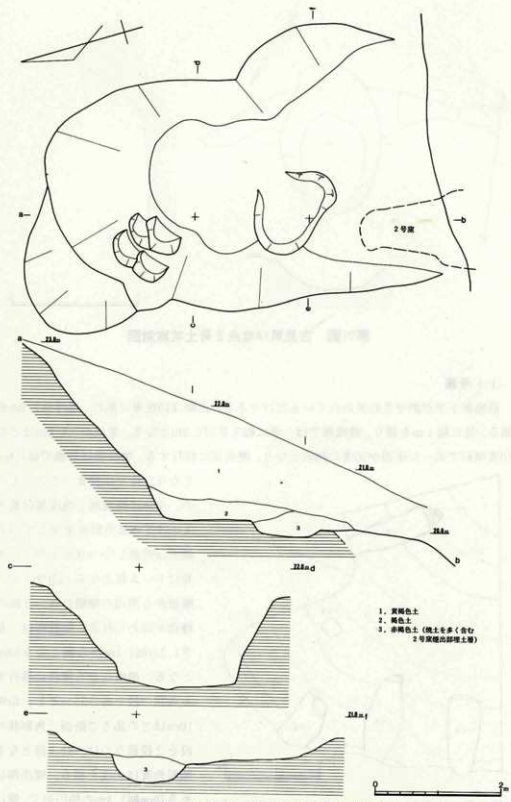
- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1. 黄褐色土         | 5. 粘土               |
| 2. 黄褐色土 (粘土塊含む) | 6. 黄褐色土 (灰、粘土粒子を含む) |
| 3. 黄褐色土         | 7. 暗褐色土 (粘土粒子を含む)   |
| 4. 灰層           | 8. 黄褐色土 (粘土粒子を含む)   |



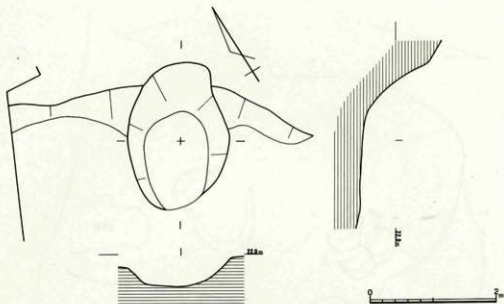
第19図 古見第14地点2号窯実測図

## 5. 古見第14地点古窯跡

北東に延びた支丘陵より、北西に出た小尾根の南斜面に1号窯と2号窯が位置している。この小尾根の先端部には、重機で斜面を削っている際に発見された3号窯～7号窯が位置している。1号窯と2号窯の位置する南斜面は、畑によって裾を削平され、窯と灰原の一部が失われている。3号窯～7号窯の位置する斜面裾は、農道と畑で削平されており、窯の一部と灰原が失われている。両者の間は15mほど離れているが、その間の斜面は畑による削平を受け、窯跡の存在は伺えなかった。



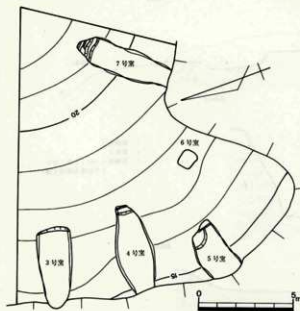
第20图 古見第14地点1号土坑实测图



第21図 古見第14地点2号土坑実測図

(1) 1号窯

前庭部下半が削平され失われているだけである。主軸は10度東に振れ、残存長7.1mを測る。焚口幅1mを測り、燃焼部では一挙に幅を広げ2.2mとなる。焚口から1.2mほどで10度傾斜であった床面が30度の傾斜となり、焼成部に移行する。焼成部是最奥で幅1.6m



第22図 古見第14地点3～7号窯全体図

となり、徐々に狭まっていくものの、全体に燃焼部と焼成部は長さ4mほどの長方形状を呈している。側壁は湾曲しつつ立ち上がり、天井はドーム状となる。ghラインの断面から周辺の側壁には、2回の修復が認められる。階段部は、長さ1.2m幅1.1mから狭くなり80cmとなる。焼成部から階段に移行する最初の段を高さ55cmとし、以降10cmほどの高さで断面三角形の段を2段張りつけ、計3段となる。傾斜角度は40度を測る。煙出部は長さ70cm幅1.4mの楕円形で、壁は

焼土化している。素掘りの土坑であり、天井は架けられていない。前庭部は、幅2.8mの楕円形で下半部は失われている。

埋土状況は、操業停止後天井部がしばらくは残っていたようで、床面に土砂が流入し天井が落ちさらに土砂が堆積している。前庭部周辺は、窯構築時の排土により造られている。

## (2) 2号窯

煙出部が1号土坑により削平され、焼成部下半から前提部にかけては、煙により削平されている。この窯は当調査地区で唯一天井部が良く残っていた例である。主軸は18度東に振れ、残存長6.6mを測る。焚口部と燃焼部は削平が著しく規模は明らかではないが、焚口から焼成部までの長さは3.2mを測る。焼成部は幅1.4mを測り、最奥で1.2mとなる。床面傾斜は25度となり、側壁は湾曲して高さ80cmのドーム状の天井となる。天井までの高さは80cmである。階段部は、長さ1.3m幅1mから狭くなり70cmとなる。焼成部から階段に移行する最初の段を高さ40cmとし、以降10cmほどの高さで断面三角形の段を2段張りつけ、計3段となる。傾斜角度は40度を測る。煙出部は1号土坑により削平を受けているが、土坑状の煙出部であったので、底部が残存していた。幅1.4m長さ1mの楕円形を呈し、赤褐色土が充満していた。前提部も煙出部と同様に土坑状なので削平は上部だけで、大半は残っていた。幅2.6m長さ1.6mの楕円形で、深さ30cmの鍋底状の断面となる。

埋土状況は、天井が残っていたため土砂が堆積した後に1号窯の灰層が流入し、さらに土砂が堆積した。1号窯の灰層が流入していることから、2号窯の後に1号窯が造られたことがわかる。

## (3) 1号土坑

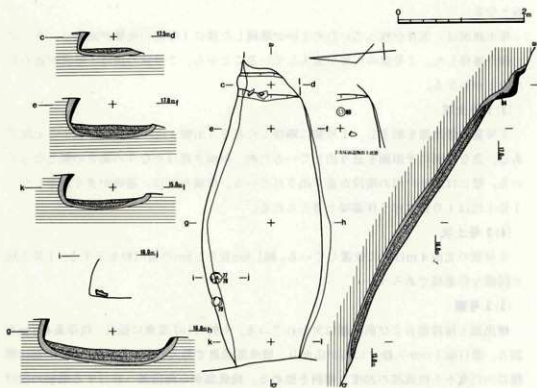
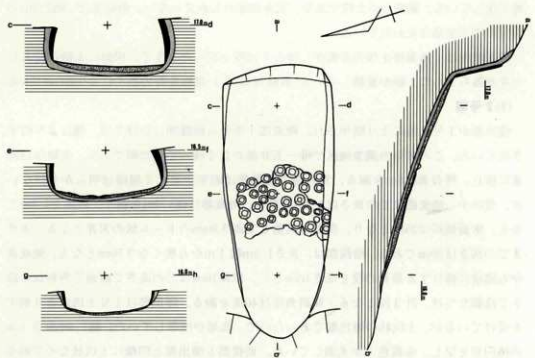
2号窯の煙出部を削平し、1号窯に隣接した長さ5m幅4mの楕円形を呈する土坑である。急な斜面に平坦面を造り出しているため、斜面上部はかなりの高さの壁となっている。壁には足掛け用の階段が造り出されている。床面からは、遺物が多く出土した。1号土坑は1号窯に伴う作業場と考えられる。

## (4) 2号土坑

1号窯の北西4mほどに位置している。幅1.6m長さ2.6mの楕円形を呈する。1号土坑と同様な作業場であろう。

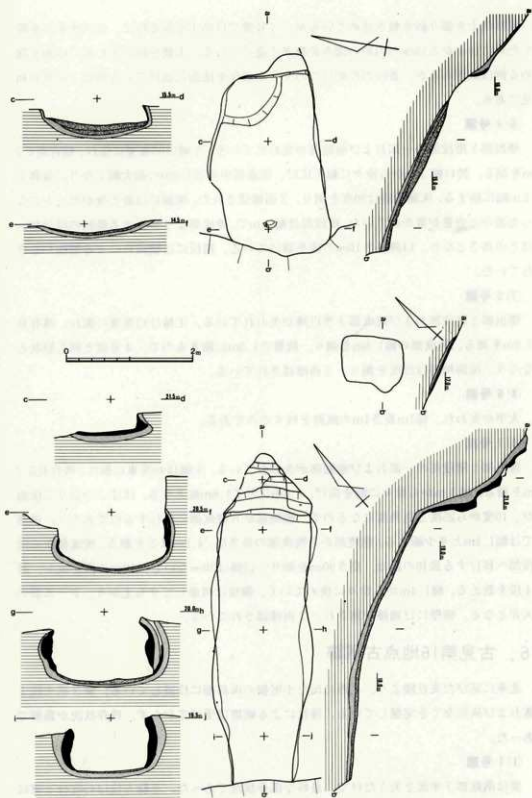
## (5) 3号窯

煙出部と階段部および前庭部は失われている。主軸は107度東に振れ、残存長4.4mを測る。焚口幅1mから徐々に幅が広がり、焼成部最奥で最大幅の1.7mとなる。床面は燃焼部の15度から焼成部の20度と傾斜を強める。焼成部から階段部へ移行する最初の段は80cmを測る。側壁は湾曲しつつ立ち上がり、ドーム状の天井となる。



第23图 古見第14地点3・4号窟実測图





第24图 古見第14地点5~7号窟实测图

床は粘土を張り砂を敷き詰めているが、3号窯では粘土を張る際に、合子状蓋環を置くために10cmから15cmの円形の窪みを数多く造っている。大甕を据えるために床面を窪める例は数例あるが、蓋環のためにこのような造作を床面に設けている例は3号窯が初見である。

#### (6) 4号窯

煙出部と階段部の一部および前庭部が失われている。主軸は95度東に振れ、残存長4.7mを測る。焚口幅1mから徐々に幅を広げ、焼成部中央で1.9mの最大幅となり、最奥で1m幅に縮まる。床面傾斜は30度を測り、2面確認された。床面には蓋と身がセットになった蓋環と壺蓋が置かれていた。階段部は幅1mで、焼成部より移行する最初の段は40cmほどの高さとなり、以降高さ10cmの段を設けている。階段には甕破片による補強がなされていた。

#### (7) 5号窯

煙出部と階段部および焼成部下半以降が失われている。主軸は82度東に振れ、残存長3.2mを測る。焼成部の幅1.8mを測り、最奥で1.3mに縮まるので、4号窯と同じ形状となろう。床面傾斜は25度を測り、2面確認されている。

#### (8) 6号窯

大半が失われ、幅1m長さ1mの痕跡を残すのみである。

#### (9) 7号窯

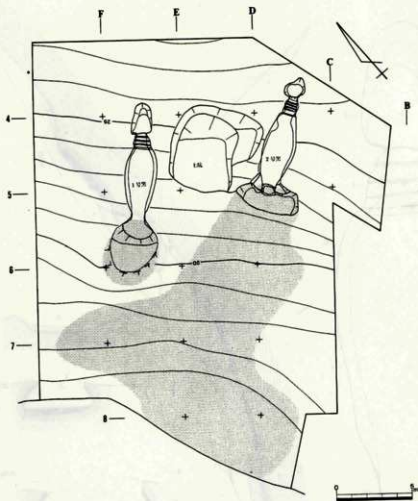
煙出部と階段部の一部および前庭部が失われている。主軸は40度東に振れ、残存長5.2mを測る。幅1mから徐々に幅を広げ、1.6mほどで1.6m幅となる。ほぼこの辺りで床面が、10度から25度と急角度になるので、燃焼部から焼成部に移行するのであろう。最奥では幅1.4mと多少縮まる。燃焼部から焼成部の長さは、4.2mほどを測る。焼成部から階段部へ移行する最初の段は、高さ90cmを測り、以降は20cmないしは10cmの段を成し、計4段を数える。幅1.4mから徐々に狭めていく。側壁は湾曲して立ち上がり、ドーム状の天井となる。側壁には補修が施され、2面確認されている。

## 6. 古見第16地点古窯跡

北東に延びた支丘陵より、北西に出た小尾根の南斜面に位置している。窯2基土坑1基および灰原全てを完掘している。後世による破壊は受けておらず、残存状況が良好であった。

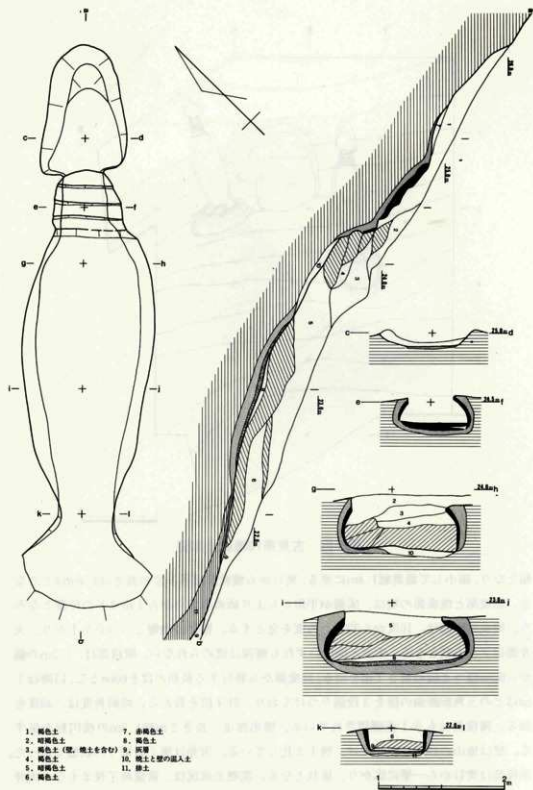
#### (1) 1号窯

窯は前庭部下半部を失うだけで、良好な保存状況であった。主軸方位は45度ほど東に振れ、残存長9mを測る。焚口幅は80cmから徐々に幅を広げ、焼成部中央で2.1mの最大

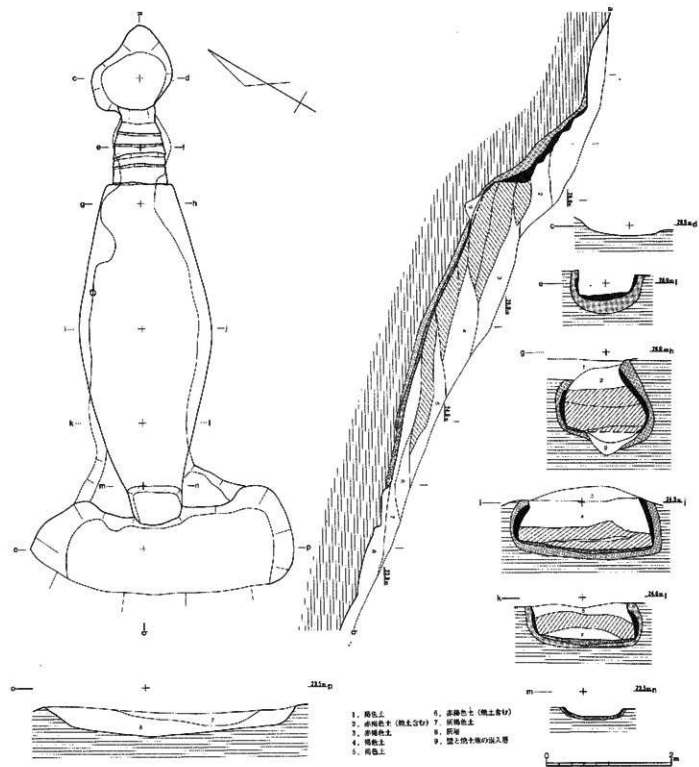


第25図 古見第16地点全体図

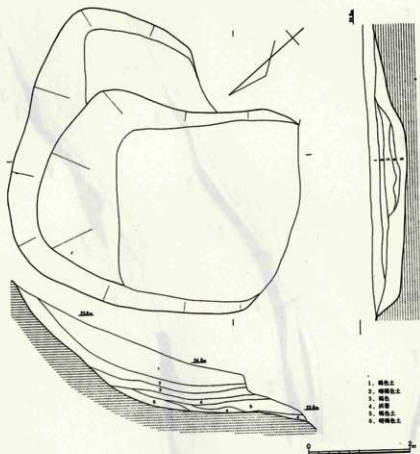
幅となり、縮小して最奥幅1.4mに至る。焚口から焼成部最奥までの長さは4.4mほどとなる。燃焼部と焼成部の境は、床面が平坦から上り始める焚口から1mほどの位置となる。焼成部床面は、10度から30度と角度を急とする。側壁は内彎しつつ立ち上がり、天井部はドーム状となる。床面と側壁いずれも修復は認められない。階段部は、1.2mの幅から60cm幅へと縮め長さ1mを測る。焼成部から移行する最初の段を60cmとし、以降は7cmほどの三角断面の段を3段張りつけており、計4段を数える。傾斜角度は、40度を測る。階段部はもう1面確認されている。煙出部は、長さ2m幅1.3mの楕円形を呈する。壁は地山の砂層が熱を受け、焼土と化している。天井は無く素掘りの状態であった。前提部は焚口から一挙に広がり、扇状となる。窯埋土状況は、営窯終了後まもなく天井が落ち、土砂が流入している。



第26図 古見第16地点1号窯実測図



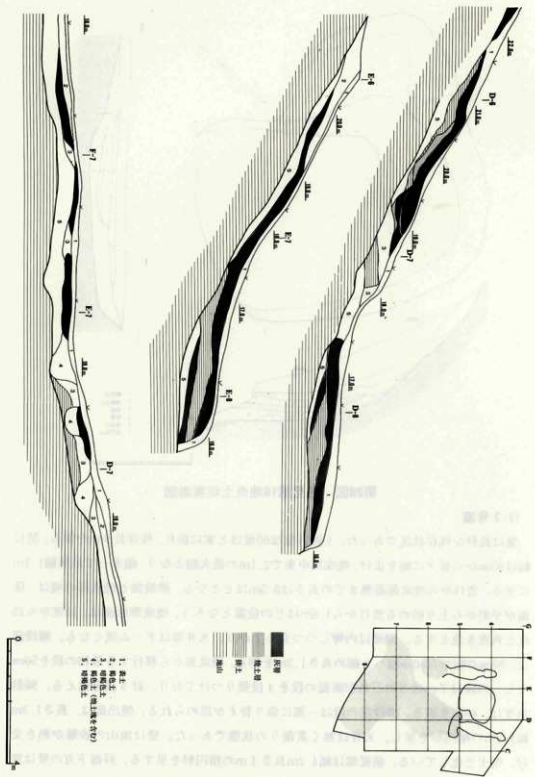
第27图 古見第16地点2号窟实测图



第28図 古見第16地点土坑実測図

(2) 2号窯

窯は良好な残存状況であった。主軸方位は60度ほど東に振れ、残存長9mを測る。焚口幅は80cmから徐々に幅を広げ、焼成部中央で2.1mの最大幅となり、縮まって最奥幅1.1mに至る。焚口から焼成部最奥までの長さは5.5mほどとなる。燃焼部と焼成部の境は、床面が平坦から上り始める焚口から1.6mほどの位置となろう。焼成部床面は、10度から25度と角度を急とする。側壁は内彎しつつ立ち上がり、天井部はドーム状となる。階段部は、90cmの幅から50cm幅へと縮め長さ1.2mを測る。焼成部から移行する最初の段を50cmとし、以降は7cmほどの三角形断面の段を4段張りつけており、計5段を数える。傾斜角度は、40度を測る。階段部の段は一部に張り替えが認められる。煙出部は、長さ1.3m幅1.3mの楕円形を呈し、天井は無く素掘りの状態であった。壁は地山の砂層が熱を受け、焼土と化している。前提部は幅4.2m長さ1mの楕円形を呈する。斜面下方の壁は無い。窯埋土状況は、営窯終了後まもなく天井が落ち、土砂が流入している。



第29図 古見第16地点土層断面図

#### (4)土坑

2号窯に隣接した、長さ5.9m幅4mの方形を呈する土坑である。急な斜面に平坦面を造り出しているため、斜面上部はかなりの高さの壁となっている。埋土層は炭を多く含んでいる。土坑は2号窯に伴う作業場と考えられる。

#### (5)灰原

灰原を完掘したのは、同地点だけである。灰原は広範囲にひろがっているが、その多くは2号窯から掃き出されている。灰原土層断面には、焼土塊が層となっているので2号窯では確認されないが、一度大きな改修を受けていることがわかる。そして斜面裾では窯構築時の排土を間層として、上下に灰層を堆積させている。

### 7. 出土遺物について

古見第16地点以外は何らか破壊を受けていたので、全体に出土遺物量は多くはないものの、時期を知り得る点数は出土している。遺物観察一覧表の分類の項に記した記号は、静岡県教育委員会1989年発刊の『静岡県の窯業遺跡』で用いた分類記号によるので、それを参照して頂きたい。さらに、以下で使用する時期区分と年代も同様である。

さて、各地点の遺構の時期と年代を羅列すると下記のとおり。

●加賀山第1地点1号窯（湖西第Ⅱ期第6小期，7世紀第2四半世紀）

●加賀山第3地点1号窯（湖西第Ⅱ期第5小期，7世紀第1四半世紀）

●加賀山第2地点

1号窯（湖西第Ⅱ期第4小期～第5小期，589年～7世紀第1四半世紀）

2号窯（湖西第Ⅱ期第3小期前～第4小期，6世紀第3四半世紀～7世紀初頭）

土坑（湖西第Ⅱ期第3小期前，6世紀第3四半世紀）

①灰原から④灰原（湖西第Ⅱ期第3小期前～第4小期，6世紀第3四半世紀～7世紀初頭）

●古見第14地点

1号窯，2号窯，土坑

（湖西第Ⅳ期第3小期前から第3小期後の最初頃，8世紀第2四半世紀前半代）

3号窯（湖西第Ⅱ期第6小期，7世紀第2四半世紀）

4号窯（湖西第Ⅳ期第3小期，8世紀第2四半世紀）

5号窯（湖西第Ⅴ期第1小期，8世紀第2四半世紀後半代～8世紀中頃）

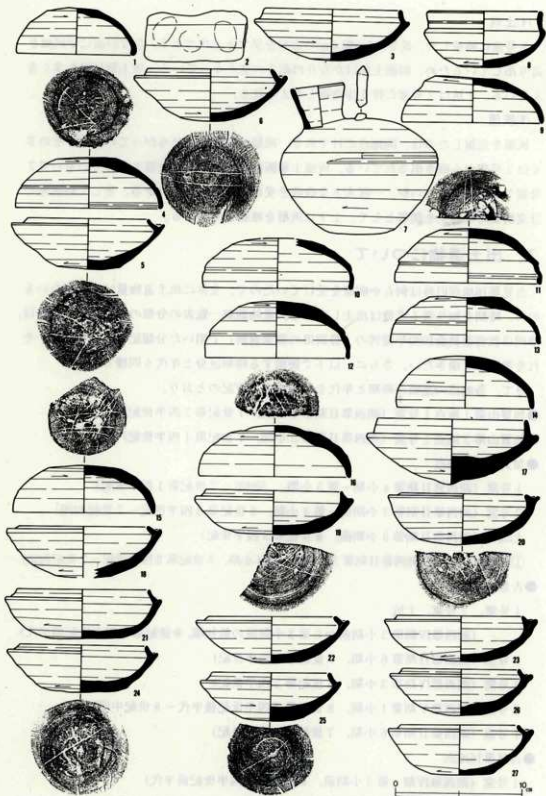
7号窯（湖西第Ⅱ期第6小期，7世紀第2四半世紀）

●古見第16地点

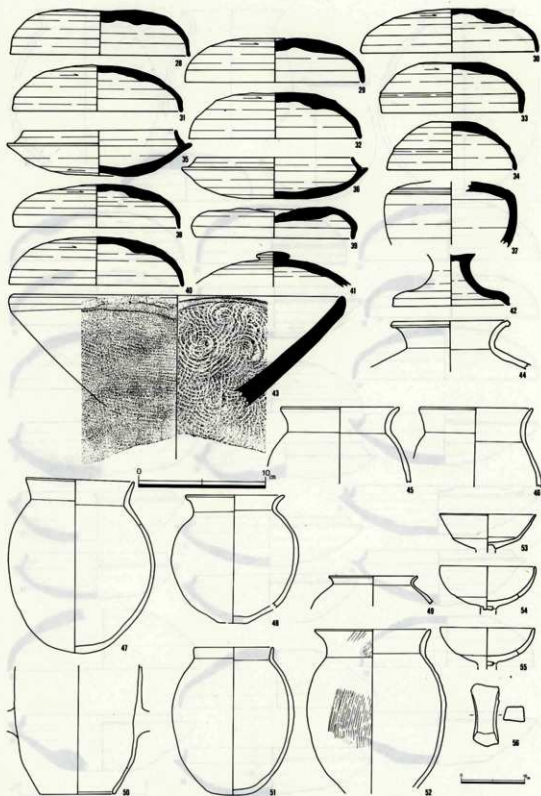
1号窯（湖西第Ⅳ期第3小期前，8世紀第2四半世紀前半代）

2号窯（湖西第Ⅳ期第3小期後～第Ⅴ期第1小期，8世紀第2四半世紀前半代～8世紀中頃）

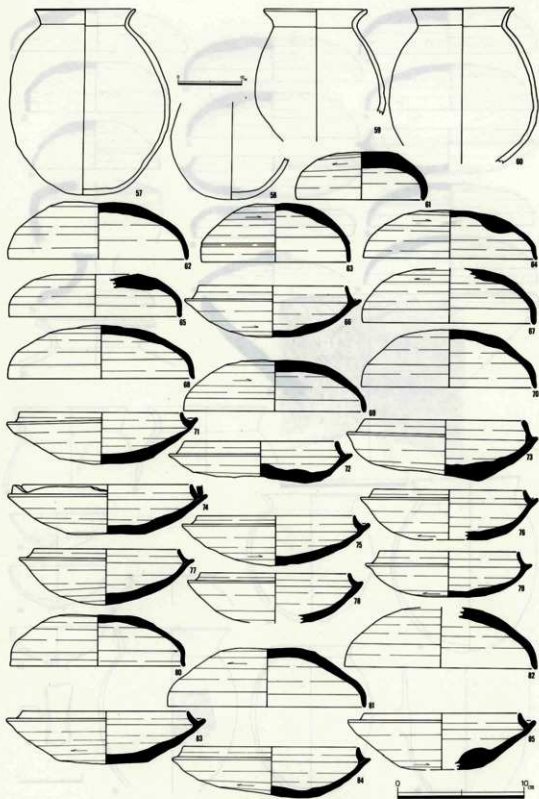




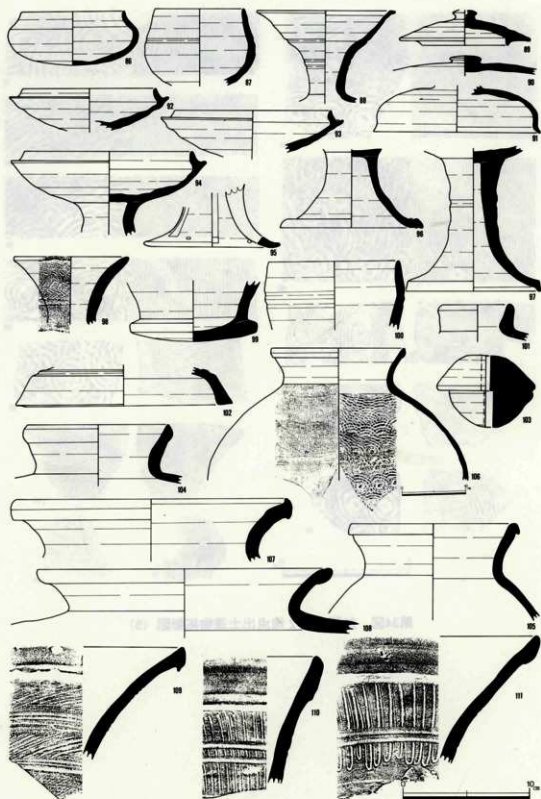
第30図 加賀山第1・3地点、加賀山第2地点出土遺物実測図(1)



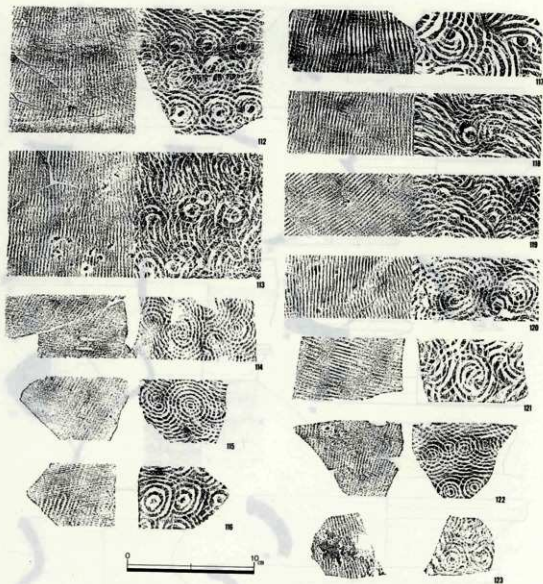
第31图 加賀山第2地点出土遺物実測图(2)



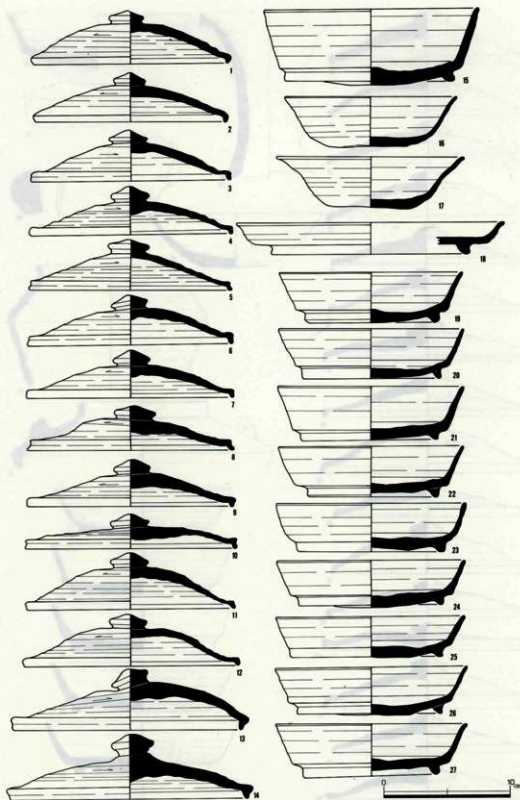
第32図 加賀山第2地点出土遺物実測図(3)



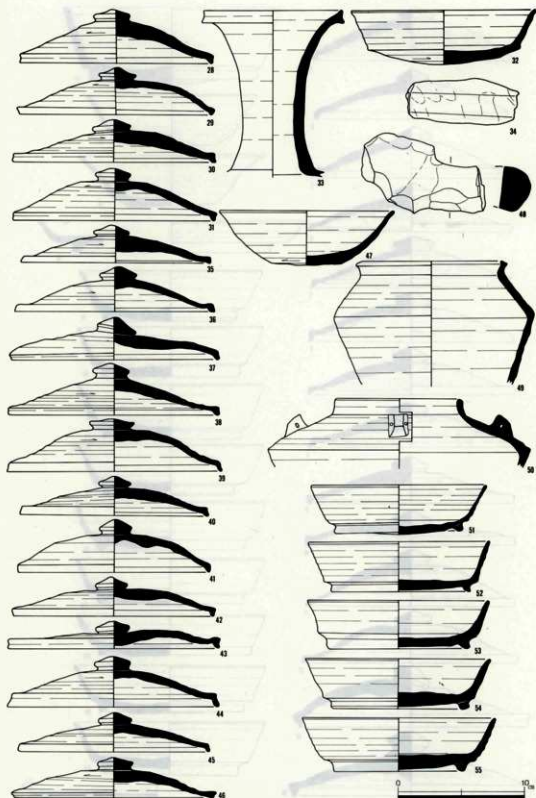
第33図 加賀山第2地点出土遺物実測図(4)



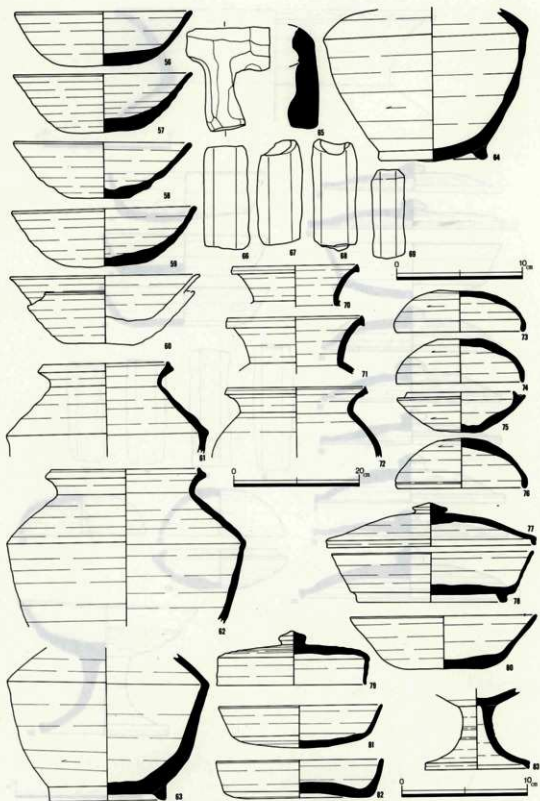
第34图 加賀山第2地点出土遺物拓影图 (5)



第35图 古見第14地点出土遺物実測図(1)

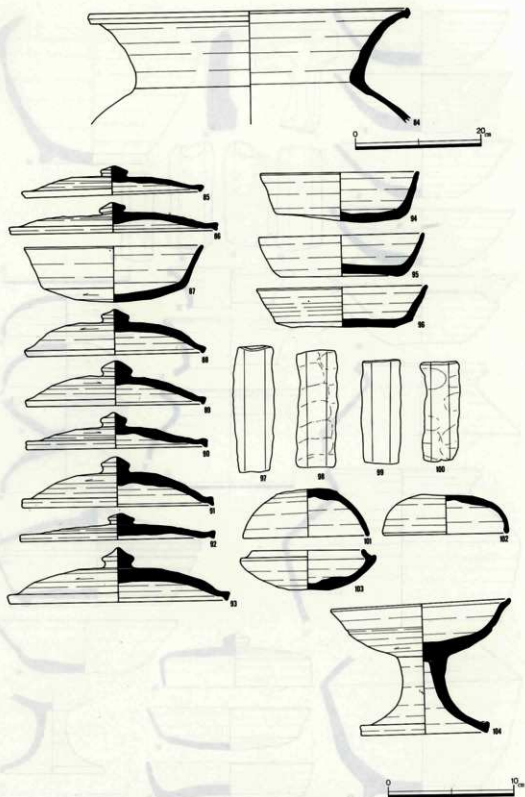


第36圖 古見第14地点出土遺物実測図(2)

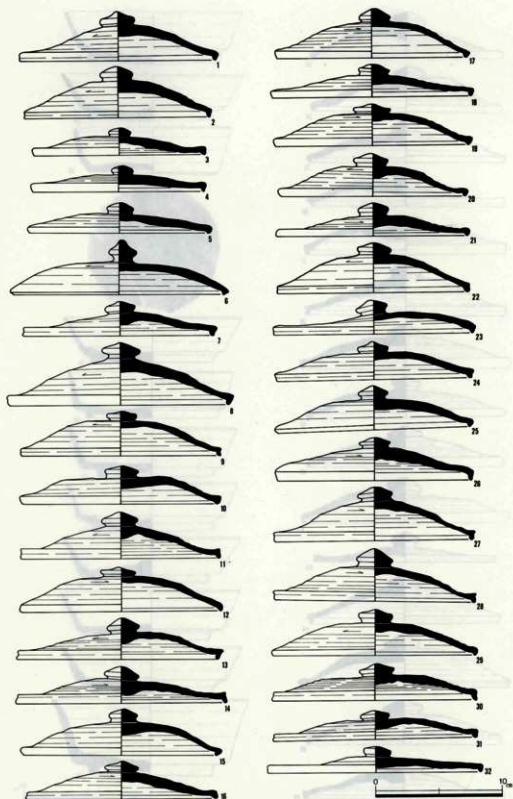


第37图 古見第14地点出土遺物実測図(3)

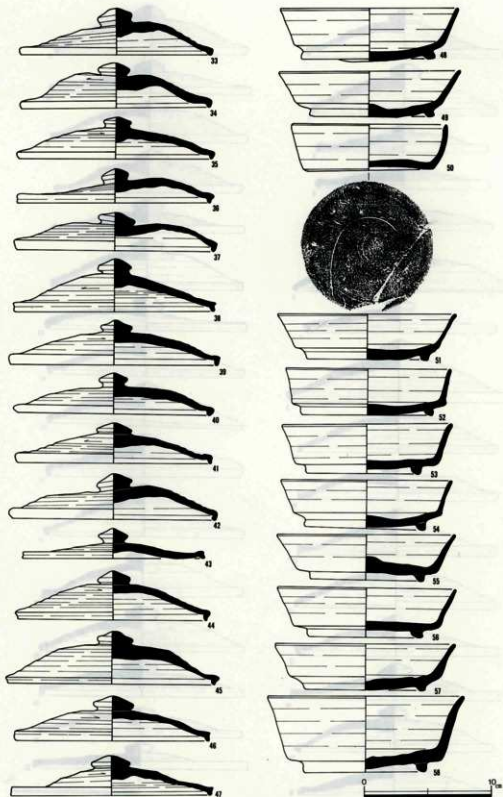




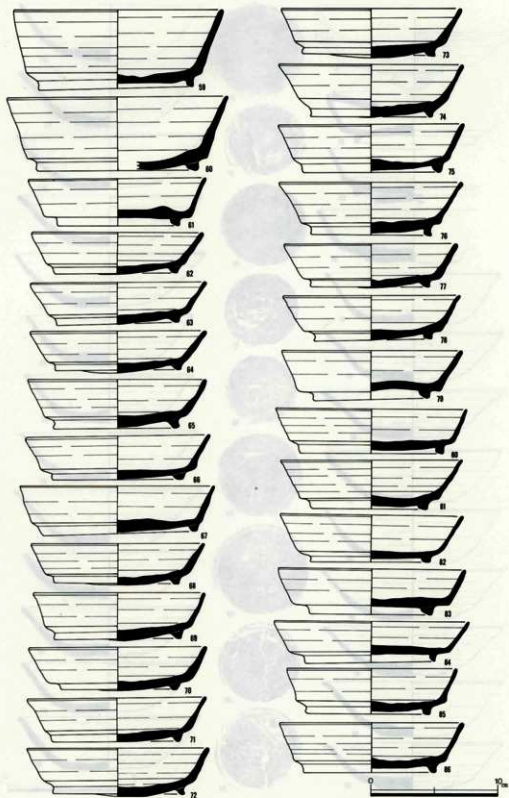
第38圖 古見第14地点出土遺物実測図(4)



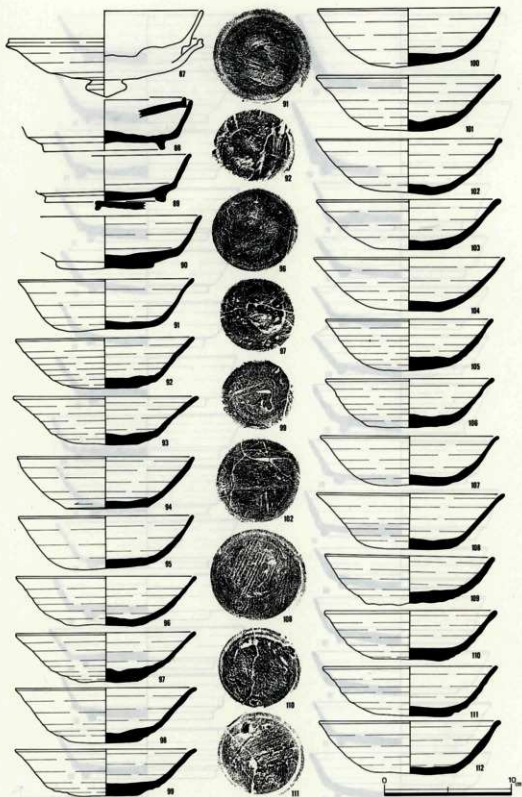
第39圖 古見第16地点出土遺物実測 (1)



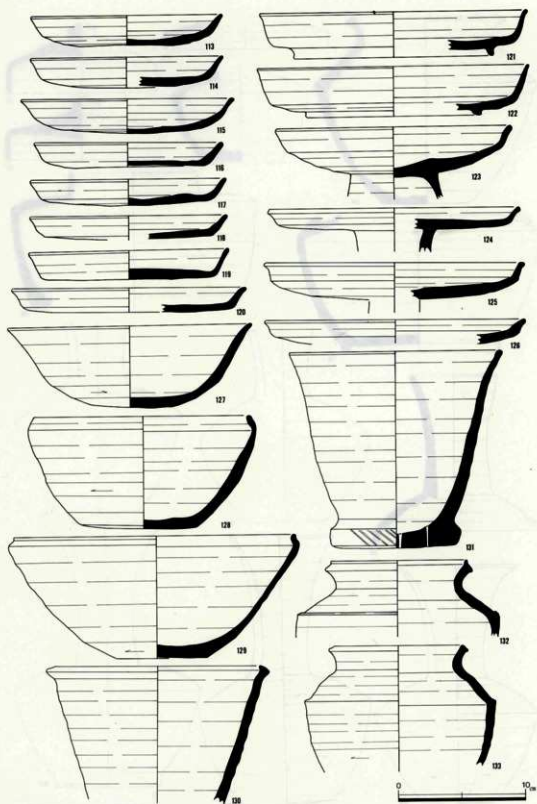
第40圖 古見第16地点出土遺物実測(2)



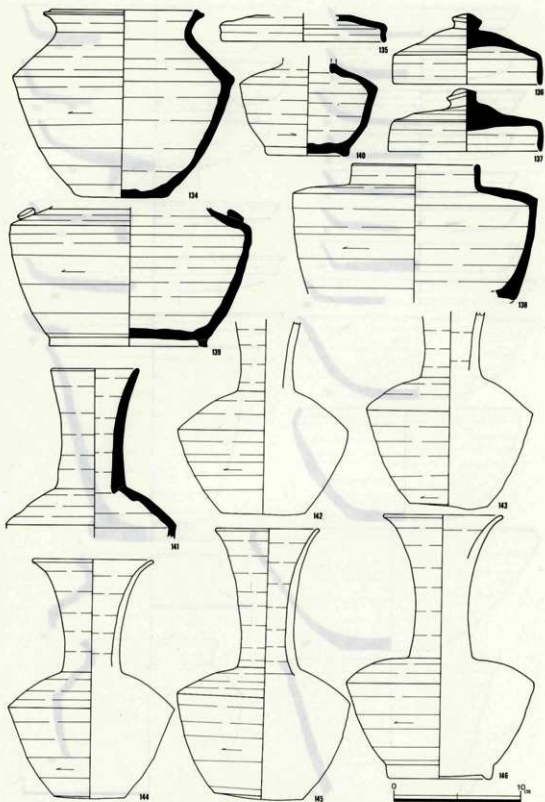
第41図 古見第16地点出土遺物実測 (3)



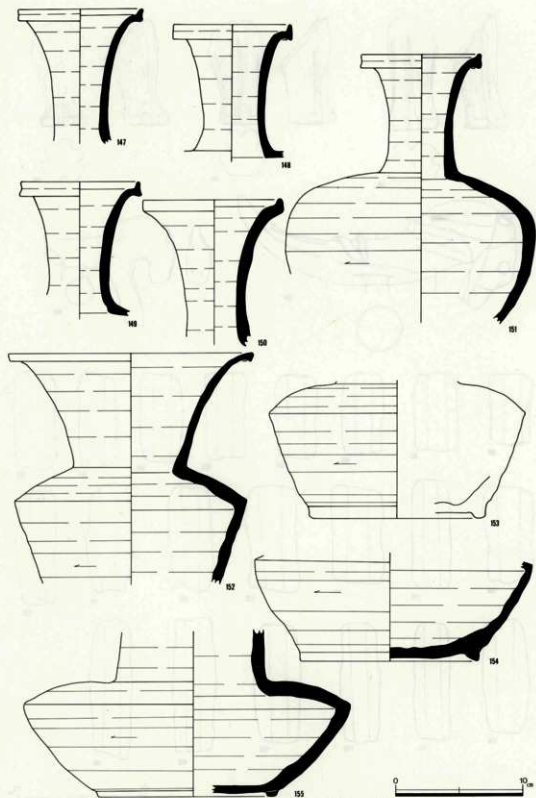
第42圖 古見第16地点出土遺物実測 (4)



第43图 古見第16地点出土遺物実測 (5)

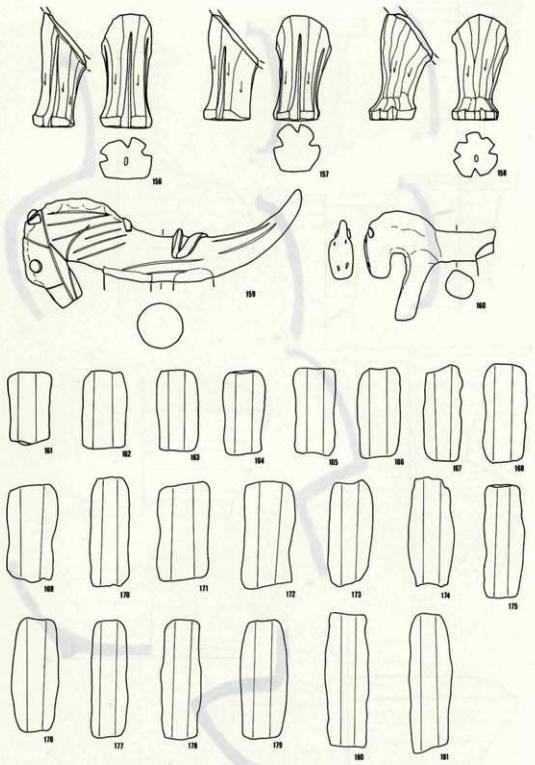


第44図 古見第16地点出土遺物実測(6)



第45図 古見第16地点出土遺物実測 (7)





第46図 古見第16地点出土遺物実測(8)

表1. 出土遺物観察一覧表

単位: cm

## ●力口築山1第1地点

No	器種名	出土位置	口径	受径	高さ	備考	分類
1	合子状坏蓋	1号窯埋土層	9.6		3.7		D1
2	陶 瓶	"	4.0		8.0		

## ●力口築山1第3地点

No	器種名	出土位置	口径	受径	高さ	備考	分類
3	合子状坏身	1号窯埋土層	10.7	12.2	4.1		D1

## ●力口築山1第2地点

No	器種名	出土位置	口径	受径	高さ	備考	分類
4	合子状坏蓋	1号窯埋土層	11.6		4.1	}対になる。	C3
5	合子状坏身	"	9.4	12.1	4.1		D1
6	"	1号窯2次床面	9.8	12.0	4.2	捺記号有り。	D1
7	平 瓶	"	4.2		12.0		
8	小 鉢	"	9.2		4.5		
9	合子状坏蓋	1号灰原	11.0		3.7		D1
10	"	"	11.6		4.0		C3
11	"	"	11.5		4.4	捺記号有り。	"
12	"	"	11.2		4.5		D1
13	"	"	11.8		3.7		C3
14	"	"	10.7		4.2		D1
15	"	"	11.1		3.8	捺記号有り。	"
16	"	"	12.0		4.1	捺記号有り。	C3
17	合子状坏身	"	11.8	13.6	5.2		C2
18	"	"	10.0	12.2	4.1		D1
19	"	"	10.8	12.5	3.5		C3
20	"	"	9.9	11.9	4.0	捺記号有り。	D1
21	"	"	10.4	12.3	3.9		"
22	"	"	9.9	12.1	3.7		"
23	"	"	10.0	12.0	3.6		"
24	"	"	10.0	11.9	3.8		"
25	"	"	9.4	11.1	3.9		"
26	"	"	9.2	11.2	3.7		"
27	"	"	9.3	11.5	4.1		"
28	合子状坏蓋	2号窯埋土層	14.2		3.6		C1
29	"	"	14.1		3.4		"
30	"	"	13.9		3.4		"
31	"	"	13.4		3.6		C2
32	合子状坏蓋	2号窯埋土層	13.6		3.7		C1
33	"	"	11.2		4.0		D1
34	"	"	10.2		3.9		D2
35	合子状坏身	"	12.0	14.6	3.7		C1
36	"	"	12.2	14.7	3.3		"
37	ハソウ	"	—	—	—		
38	合子状坏蓋	2号窯1次床面	13.0		3.4		C2
39	"	"	12.5		2.5		C3
40	"	土均埋土層	13.8		3.9		C1

表2. 出土遺物観察一覧表

●力口窪119号2号土坑

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	受径	高さ	備考	分類
41	坏蓋	②灰原	—	—	—		
42	高坏胴部	土坑埋土層, ①灰原	—	—	10.3		
43	器台	土坑埋土層, ①灰原	26.6	—	—		
44	甕	土坑埋土層	18.8	—	—	土質で須恵器成形	
45	甕	1号住居跡床面	18.7	—	—	土師器	
46	"	"	17.9	—	—	"	
47	"	"	17.0	—	28.1	"	
48	甕	"	15.5	—	20.4	"	
49	"	"	14.0	—	—	"	
50	甕	2号住居土, ③灰原	—	—	—	"	
51	甕	③灰原	—	—	—	"	
52	"	2号住居土, ②灰原	18.2	—	—	"	
53	高坏	2号住居跡床面, 埋土	15.2	—	—	"	
54	"	2号住居跡床面	15.0	—	—	"	
55	"	"	14.9	—	—	"	
56	磁石	"	—	—	—	"	
57	甕	2号住居跡床面	16.0	—	28.6	土師器	
58	"	2号住居跡床面	—	—	—	"	
59	"	2号住居跡床面	16.2	—	—	"	
60	"	2号住居跡床面, 甕	16.1	—	—	"	
61	合子状坏蓋	①灰原	10.0	—	3.9		D2
62	"	"	14.0	—	4.5		C1
63	"	"	11.7	—	4.8		C3
64	"	"	13.7	—	3.9		C1
65	"	"	13.5	—	3.4		C2
66	合子状坏身	"	11.6	13.9	4.2		C1
67	合子状坏蓋	②灰原	13.7	—	4.4		"
68	"	"	14.6	—	4.2		"
69	"	"	14.3	—	4.1		"
70	"	"	13.8	—	4.6		"
71	合子状坏身	"	12.8	15.0	4.1		"
72	"	2号埋土層	12.0	14.5	3.4		"
73	"	②灰原	12.6	15.1	4.8		"
74	"	"	13.4	15.7	4.0		"
75	"	"	12.4	14.8	4.0		"
76	"	"	11.9	14.0	4.1		C2
77	"	"	11.4	13.8	4.5		"
78	"	"	11.8	13.8	—		"
79	"	"	11.0	13.1	3.7		C3
80	合子状坏蓋	③灰原	13.6	—	4.1		C1
81	"	"	15.5	—	4.7		"
82	"	"	15.2	—	5.0		"
83	合子状坏身	"	13.0	15.7	4.2		"
84	"	"	13.4	15.6	4.1		"

表3. 出土遺物観察一覧表

●古瓦窯1第2地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	受径	高さ	備考	分類
85	合子状坏身	①灰原	12.2	14.8	4.5		C1
86	小鉢	①灰原	8.0		4.2		
87	高坏	"	7.0		—		
88	ハソウ	①灰原	11.0		—		B2
89	壺蓋	②灰原	6.8	10.4	3.0		
90	"	"	—		—		
91	"	③灰原	13.2		—		
92	有蓋高坏	"	10.4	12.5	—		
93	"	②灰原	12.3	14.4	—		
94	"	"	13.2	15.8	4.0		
95	高坏胴部	②灰原, 1号住居跡埋土	底径 10.8				
96	"	①灰原	底径 11.3				
97	"	1号住居跡埋土層	底径 10.8				
98	瓶	③灰原	9.1		—		
99	すり鉢	2号住居跡埋土層	底径 10.0				
100	壺	③灰原	10.4		—		
101	"	②灰原	6.0		—		
102	脚部	2号住居跡埋土層	—	17.1	—		
103	紡錘車	①灰原	7.8 6.6		2.9 2.9	上の紡錘車 下の紡錘車	
104	壺	②灰原	11.1		—		
105	"	"	13.0		—		
106	壺	①灰原	21.1		—		
107	"	"	22.0		—		
108	"	②③灰原	23.2		—		
109	大壺	②灰原	—		—		
110	"	①灰原	—		—		
111	"	②灰原	—		—		
112	壺	①灰原	—		—	No. 106と同じ	
113	壺破片	1号住居跡埋土層	—		—		
114	"	表土	—		—		
115	"	"	—		—		
116	"	①灰原	—		—		
117	"	③灰原	—		—		
118	"	土坑埋土層	—		—		
119	"	2号住居跡埋土層	—		—		
120	"	①灰原	—		—		
121	"	③灰原	—		—		
122	"	表土	—		—		
123	"	③灰原	—		—		

●古瓦窯1 4地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	総径	総高	備考	分類
1	坏蓋	1号窯前庭部灰層	15.2	4.3		3.7	1.1		Ae
2	"	1号窯埋土	15.0	4.0		2.5	1.1		Ae
3	"	"	15.6	4.1		3.0	1.0		Bc

表4. 出土遺物觀察一覽表

●吉野第14地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鋳径	鋳高	備考	分類
4	坏蓋	1号窯埋土	16.0	3.9		2.9	1.2		Bc
5	"	"	16.0	4.2		3.3	1.1		"
6	"	"	16.1	4.0		3.0	1.1		"
7	"	1号窯埋土	16.2	3.9		2.9	1.2		"
8	"	"	16.4	3.7		3.3	1.1		"
9	"	"	16.2	3.6		2.9	1.1		"
10	"	"	16.6	2.8		3.0	1.0		"
11	"	"	16.4	4.6		3.0	1.1		Ae
12	"	"	16.8	4.1		2.9	1.1		Bc
13	"	"	18.0	5.0		3.0	1.4		"
14	"	"	18.8	5.3		3.3	1.7		"
15	碗	"	17.0	6.1	13.5				C
16	坏	"	13.6	4.2					Eb
17	"	"	14.8	4.2					"
18	高台皿	"	21.1	2.6	—				
19	蓋付有台坏身	1号土坑	14.5	4.0	10.7				Ah
20	"	"	14.6	4.0	11.0				"
21	"	"	14.7	4.3	10.7				"
22	"	"	14.6	4.1	10.4				"
23	"	"	15.0	3.9	11.7				D
24	"	"	15.0	3.8	11.5				Ah
25	"	"	14.9	3.4	12.1				"
26	"	"	15.2	3.9	11.5				"
27	"	"	15.1	4.2	10.8				"
28	坏蓋	1号土坑	15.2	4.4		2.9	1.0		Bd
29	"	"	15.2	3.8		3.0	1.1		"
30	"	"	16.2	3.4		3.1	1.0		Bc
31	"	"	16.0	4.2		2.9	1.1		Bd
32	坏	"	14.7	4.4					
33	長頸瓶	"	10.9	12.6	—				
34	陶罐	"	3.5	8.5				120g	
35	坏蓋	2号窯灰層	15.0	3.0		2.8	0.9		Bd
36	"	"	15.8	3.6		3.0	1.1		Bc
37	"	"	16.2	3.4		3.1	1.3		Ae
38	"	"	16.2	4.2		2.8	1.2		"
39	"	"	16.8	4.2		3.6	0.8		Bc
40	"	C-4区灰層	14.8	3.3		2.5	0.9		Be
41	"	"	15.0	4.3		2.6	1.2		"
42	"	"	15.7	3.2		2.5	1.1		"
43	"	"	16.7	2.2		2.7	0.9		Bc
44	"	"	16.6	4.1		2.8	1.2		"
45	"	D-5区灰層	15.2	3.7		2.6	1.0		Be
46	"	"	15.7	3.3		2.8	1.0		Ae
47	坏	2号窯灰層	13.8	4.6					Db

表5. 出土遺物観察一覽表

●吉見第14地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	紐径	紐高	備考	分類
48	陶馬	2号灰層	—	—	—				C
49	壺	"	12.0						
50	四耳壺	"	10.1	—	—				
51	蓋付有台坏身	C-4区灰層	14.0	4.0	10.2				A f
52	"	"	14.3	4.0	11.0				A h
53	"	"	14.3	3.9	11.3				"
54	"	E-3.5区灰層	14.7	4.0	10.8				"
55	"	C-4区灰層	15.3	4.4	10.4				A f
56	坏	"	14.0	4.3					E b
57	"	"	14.0	4.7					"
58	"	"	14.1	4.7					"
59	"	"	14.6	4.6					"
60	"	"						重ね焼き	"
61	壺	E-5区灰層	10.7	—	—				
62	"	"	12.6	—	—				
63	長頸瓶	"	—	—	9.2				
64	"	"	—	—	8.6				
65	陶馬	C-4区灰層	—	—	—				C
66	陶鉢	"	3.6	8.2				82g	
67	"	"	3.5	—				82g	
68	"	"	3.4	8.8				81g	
69	"	"	2.4	7.0				40g	
70	甕	E-5区灰層	20.1	—	—				
71	"	"	21.5	—	—				
72	"	"	21.7	—	—				
73	合子状坏蓋	3号窯埋土	10.0	3.3					D 2
74	"	"	10.0	3.5					"
75	合子状坏身	3号窯埋土	8.4	3.2	受径 10.1				"
76	合子状坏蓋	4号窯埋土	10.0	4.0					"
77	坏蓋	4号窯1次床面直上	16.4	3.5		2.7	0.8	}対になる。	B c
78	蓋付有台坏身	"	15.9	4.0	11.8				A h
79	壺蓋	"	11.8	4.3		2.1	1.1		
80	坏	4号窯2次床面直上	14.7	4.2					E a
81	蓋付平底盤台坏身	4号窯埋土	12.8	3.5					A a
82	"	"	13.1	3.0					A b
83	高坏	4号窯埋土	—	—	8.2				
84	甕	4号窯階段増強材	50.0	—	—				
85	坏蓋	5号窯2次床面直上	13.8	2.3		2.1	0.8		C a
86	"	"	16.3	2.4		2.0	0.9		"
87	蓋付平底盤台坏身	5号窯1次床面直上	14.1	4.5					A a
88	坏蓋	5号窯埋土	13.8	3.7		2.2	1.2		C a
89	"	"	14.0	3.6		2.4	1.2		"
90	"	"	14.2	2.9		2.1	1.1		"
91	"	5号窯埋土	15.1	4.0		2.2	1.3		"

表6. 出土遺物觀察一覽表

## ●古見第14地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	紐径	紐高	備考	分類
92	坏蓋	5号塚埋土	15.4	2.1		2.1	0.9		Ca
93	"	5号塚埋土	17.1	4.4		2.5	1.6		"
94	蓋付平底無台坏身	"	12.5	4.1					Aa
95	"	"	13.0	3.5					Ab
96	"	"	13.5	3.4					Aa
97	陶甕	"	3.2	10.0				89g	
98	"	"	3.2	9.9				85g	
99	"	"	3.1	8.2				73g	
100	"	"	2.7	8.0				58g	
101	合子伏坏蓋	7号塚埋直上	9.9	3.8				No103と対	D2
102	"	"	10.0	3.2					"
103	合子伏坏身	"	8.8	3.2	受径 10.7			No101と対	"
104	高坏	"	14.2	10.4	10.0				Aa

## ●古見第16地点

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	紐径	紐高	備考	分類
1	坏蓋	1号塚埋土層	15.6	4.0		2.8	1.2		Bc
2	"	"	14.6	4.2		2.6	1.2		"
3	"	2号塚埋土層	13.7	2.2		1.2	0.7		Ca
4	"	2号塚埋直上	13.9	2.1		1.7	0.8		"
5	"	"	14.6	2.4		2.1	0.9		"
6	"	"	17.2	4.4		2.2	1.8		"
7	"	土坑埋土層	15.2	2.8		2.4	1.0		Be
8	"	"	17.8	5.0		3.0	1.9		Bd
9	"	C-6区灰層	15.8	3.6		2.3	0.8		Be
10	"	"	15.8	3.1		2.6	1.1		"
11	"	"	15.8	3.8		2.9	1.1		Bc
12	"	"	16.0	3.6		2.7	0.8		Ae
13	"	"	16.2	3.3		2.5	1.2		Be
14	"	"	16.6	3.0		2.7	1.1		Bc
15	"	C-7区灰層	15.7	4.8		2.2	1.1		Be
16	"	"	15.1	3.1		2.7	0.9		Ae
17	"	C-8区灰層	15.3	4.0		2.4	1.0		Be
18	"	D-5区換土層	15.6	2.7		2.5	0.9		"
19	"	"	15.6	3.4		2.9	0.8		Bd
20	"	D-6区灰層	15.0	3.5		2.7	1.1		"
21	"	"	15.3	2.8		2.4	1.1		Be
22	"	"	15.1	4.0		2.6	1.0		Bc
23	"	"	16.0	2.8		2.5	1.2		Be
24	"	"	15.4	3.0		2.4	0.9		"
25	"	"	15.6	3.5		2.3	1.1		"
26	"	"	15.4	3.4		2.4	0.9		"
27	"	"	15.7	4.3		2.8	1.5		Bc
28	"	"	15.8	4.2		2.8	1.5		"
29	"	"	16.2	3.7		2.7	1.1		Bd

表7. 出土遺物観察一覽表

●古見第16地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鋳径	鋳高	備考	分類
30	坏蓋	D-6区灰層	16.1	3.0		2.7	1.0		Bc
31	"	"	16.1	2.3		2.3	0.7		Be
32	"	"	16.9	2.1		2.1	0.8		Ca
33	"	D-7区上部灰層	15.3	3.9		2.8	1.4		Ae
34	"	"	15.2	3.6		2.5	1.0		Be
35	"	"	15.6	3.4		2.2	0.9		Ca
36	"	"	15.6	2.7		2.2	1.1		"
37	"	"	16.0	3.0		2.8	1.0		Bc
38	"	"	15.8	4.3		2.6	1.2		Be
39	"	"	16.2	3.6		2.5	1.0		"
40	"	D-8区上部灰層	15.7	3.4		2.3	1.1		Ca
41	"	"	15.1	3.3		2.8	0.9		Bc
42	"	"	16.5	3.8		2.9	1.3		"
43	"	E-7区上部灰層	14.2	2.5		2.3	1.2		Ca
44	"	"	15.3	3.9		2.6	1.1		Bc
45	"	"	16.8	4.2		2.8	1.1		"
46	"	D-8区下部灰層	15.3	3.6		3.2	1.1		"
47	"	"	15.8	3.2		3.0	1.0		Bd
48	蓋付有台坏身	1号家埋土層	14.1	4.2	10.6				Ah
49	"	"	14.3	3.8	9.8				"
50	蓋付平底胎台坏身	2号家埋土層	12.3	3.6	10.3			底部中央に未切り痕	Ab
51	蓋付有台坏身	土坑埋土層	14.0	3.8	9.6				Ah
52	"	C-6区灰層	13.0	3.7	10.4				E
53	"	"	13.4	4.1	9.1				D
54	"	"	13.5	4.0	9.6				"
55	"	"	14.1	3.6	9.0				"
56	"	"	14.1	4.0	9.1				"
57	"	"	14.2	3.8	9.5				Ah
58	"	"	15.4	6.0	9.7				E
59	"	"	16.6	6.3	12.2				"
60	"	"	17.4	5.9	12.7				"
61	"	C-7区灰層	14.0	3.5	9.7				"
62	"	D-5区焼土層	13.6	3.5	9.8				Ah
63	"	"	13.9	3.5	9.7				"
64	"	"	13.9	3.6	10.0				"
65	"	"	14.0	4.0	9.8				"
66	"	"	14.5	3.5	10.4				"
67	"	"	15.3	4.0	12.2				E
68	"	D-6区灰層	13.6	3.4	9.9				Ah
69	"	"	13.5	3.9	10.0				"
70	"	"	14.0	3.8	9.2				"
71	"	"	14.0	3.6	10.2				"
72	"	"	14.3	4.0	10.4				"
73	"	"	14.2	3.9	10.5				"



表8. 出土遺物観察一覽表

●古見第16地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	紐径	紐高	備考	分類
74	蓋付有合坏身	D-6区灰層	14.5	4.2	9.6				Ah
75	"	"	14.6	3.7	11.0				"
76	"	"	14.5	4.3	9.5				"
77	"	D-7区上部灰層	13.7	3.5	9.4				"
78	"	"	14.0	3.6	9.3				"
79	"	"	14.2	4.0	9.2				"
80	"	"	15.1	3.6	11.4				"
81	"	D-8区上部灰層	14.3	4.0	9.3				"
82	"	"	14.4	3.8	9.5				"
83	"	"	14.7	4.7	9.7				D
84	"	"	15.4	3.4	10.3				"
85	"	"	13.9	3.7	9.8				"
86	"	E-7区上部灰層	14.5	4.1	10.4				Ah
87	蓋坏融管	D-5区灰層	—	—	—	—	—		"
88	"	C-6区灰層	—	—	—	—	—		Eb
89	"	D-8区上部灰層	—	—	—	—	—		"
90	坏	C-5区灰層	—	—	—	—	—		"
91	"	"	13.8	4.2					"
92	"	"	14.1	4.2					"
93	"	"	14.6	3.9					"
94	"	C-6区灰層	13.9	4.2	6.5			下部に施割り模様	G
95	"	"	13.8	4.3					Eb
96	"	"	14.2	4.1					"
97	"	"	14.2	4.0					"
98	"	"	14.2	4.4					"
99	"	"	14.3	3.8					"
100	"	D-5区灰層	14.3	4.7					"
101	"	D-8区灰層	14.6	4.5					"
102	"	"	14.7	4.5					"
103	"	"	14.6	4.1					"
104	"	"	15.1	4.3					"
105	"	D-7区上部灰層	13.2	4.1					"
106	"	"	13.3	4.0					"
107	"	"	14.0	3.9					"
108	"	"	14.8	4.5					"
109	"	D-8区上部灰層	13.3	3.9					"
110	"	"	13.6	4.0					"
111	"	"	13.8	4.1					"
112	"	"	14.3	4.4					"
113	皿	D-7,8区上部灰層	15.0	2.4					"
114	"	D-6,7,8区上部灰層	15.1	2.4					"
115	"	2号灰埋土層	16.8	2.8					"
116	"	D-8, E-7区上部灰層	14.8	2.0					"
117	"	D-8区上部灰層	15.4	2.2					"

表9. 出土遺物觀察一覽表

●古見第1号地点

単位: cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鋳径	鋳高	備考	分類
118	皿	D-8, E-7区上部灰層	15.5	1.9					
119	"	C-7区灰層	15.8	2.4					
120	"	D-6区灰層	18.4	2.0					
121	蓋付皿	E-7上部灰層, F-5区灰層	21.1	3.7	15.8				
122	"	E-7上部灰層, F-5区灰層	21.4	4.0	14.0				
123	高杯	D-7, 8区上部灰層	18.2	—	—				
124	"	D-7区灰層	20.0	1.8	—				
125	"	D-6区灰層	20.6	3.0	—				
126	"	D-6, 7区灰層	20.6	—	—				
127	鉢	D-7, E-7区灰層	19.2	6.5	—				
128	"	D-6区灰層	17.0	9.0	9.2				
129	"	C-6, D-7, 8区上下部灰層	22.2	9.8	7.2				
130	こわ鉢	D-5, 6, 7区灰層	16.8	15.7	10.0				
131	"	C-5区, D-6区灰層	17.6	—	—				
132	壺	D-6, 7, 8区灰層	11.6	—	—				
133	"	D-5, 6, 7区上部灰層	11.0	—	—				
134	"	C-7, D-5区灰層	12.6	15.0	7.4				
135	壺蓋	D-6区灰層	13.1	—	—	—	—		
136	"	D-7区灰層	11.8	5.6	—	2.3	1.3		
137	"	D-6区灰層	12.2	5.0	—	2.3	1.4		
138	蓋付壺	D-7区上部灰層	10.1	—	—				
139	壺	D-6区灰層, D-7区上部灰層	—	—	12.4				
140	長頸瓶	D-6, 7区上部灰層	—	—	6.7				
141	"	E-7区上部灰層	7.0	—	—				D
142	"	D-7区上部灰層	—	—	6.6				"
143	"	D-7区上部灰層	—	—	6.1				"
144	"	D-8区上下部灰層	9.6	19.1	5.5				"
145	"	C, D-6区灰層	8.2	21.0	7.0				"
146	"	C-6区灰層	9.5	21.0	8.0				Cd
147	"	E-6区灰層	9.8	10.4	—				B
148	"	D-6区灰層	9.4	10.1	—				"
149	"	D-7区上部灰層	7.4	10.0	—				"
150	"	D-6区灰層	11.0	11.0	—				"
151	"	D-5区灰層, D-6区上部灰層	9.5	9.4	—				"
152	灰口壺	土坑埋土, C-5区灰層	17.4	9.0	—				"
153	"	D-7区上部灰層	—	—	14.0				
154	"	表土	—	—	14.1				
155	"	1号家埋土層	—	—	14.2				
156	獸脚	C-6区灰層	—	—	—				
157	"	E-7区下部灰層	—	—	—				
158	"	表土	—	—	—				
159	陶馬	D-5区埋土層	—	—	—				B
160	"	D-5区灰層	—	—	—				C
161	陶鈴	D-6区灰層	3.5	5.8				40g	

表10. 出土遺物觀察一覽表

●古見第16地点

単位：cm

No	器種名	出土位置	口径	高さ	底径	鋳径	鋳高	備考	分類
162	陶 鉢	C-8区灰層	3.5	6.2				45g	
163	"	E-7区灰層	3.3	6.5				58g	
164	"	C-6区灰層	3.3	6.7				41g	
165	"	"	3.3	7.0				48g	
166	"	D-6区灰層	3.4	7.2				53g	
167	"	F-5区灰層	3.0	7.7				58g	
168	"	D-5区灰層	3.2	7.9				79g	
169	"	E-4区灰層	4.0	7.7				79g	
170	"	C-6区灰層	3.0	8.7				63g	
171	"	E-4区灰層	4.0	7.6				110g	
172	"	"	3.9	7.7				100g	
173	"	F-6区灰層	3.4	8.6				90g	
174	"	C-6区灰層	3.7	8.7				75g	
175	"	D-5区灰層	3.2	9.0				80g	
176	"	D-6区灰層	3.7	9.0				87g	
177	"	"	3.0	9.4				42g	
178	"	E-7区上部灰層	3.1	9.6				69g	
179	"	D-8区灰層	3.7	9.4				105g	
180	"	D-7区上部灰層	3.4	10.6				116g	
181	"	C-7区灰層	3.4	11.0				70g	

## 8. まとめ

今回の調査で気の付いたことを、幾つか述べてまとめとしよう。

まず、加賀山第2地点2号窯で6世紀代の窯が調査されたことが、大きな成果であろう。川尻古窯(註1)と西笠子第64地点古窯(註2)に次いで3例目の調査となった。

次に、出土須恵器の皿であるが、皿は湖西第IV期には生産されないと考えていたが、古見第16地点で皿が出土しているので、第V期に先行する第IV期第3小期後から新たに生産を開始することが判明した。そして、盤状の高坏D類や大皿Bb類、長頸瓶B類の出現も同様となる。つまり、第V期に現れると考えられていた新たな器種は、すでに第IV期第3小期後に登場していたのである。したがって、蓋环以外の器種では、第IV期第3小期後と第V期第1小期に違いはないので、両者を峻別する指標は蓋付有台坏身と蓋付平底無台坏身の有無の違いとなる。今後、湖西編年の第IV期第3小期後で器種内容に変更が生じることになる。このことにより、第V期をもって両期と成す考えは間違いで、先行する第IV期第3小期後にすでに、引き起こされていたことになる。

さて、蓋付有台坏身と蓋付平底無台坏身の関係であるが、基本的に両者は併存することではなく、蓋付有台坏身に取って替わって蓋付平底無台坏身が登場すると考えている。両者を同量出土する窯は無く、古見第16地点で確認されたように、蓋付有台坏身の中に数点の蓋付平底無台坏身が混在するか、あるいは蓋付平底無台坏身の中に蓋付有台坏身が混在する、いずれかの様相となる。

窯詰め法も、古見第16地点でみられるごとく、坏身に蓋を正位に被せた蓋环を互い違いに積み重ねる方法と、坏身に蓋を逆位に被せた蓋环を縦に積み重ねる方法がある。第IV期以前は前者の窯詰め法が大半であるが、第V期以後は後者の窯詰め法を専らとしているので、窯詰め法でも第IV期第3小期後頃が転換期となる。

窯構造は、加賀山第1地点1号窯はC-II式、加賀山第3地点1号窯はC-I式、加賀山第2地点2号窯はB式、加賀山第2地点1号窯は不確かであるがC-I式、古見第14地点1号窯・2号窯はC-IVa式、同地点3号窯・7号窯はC-II式、古見第16地点1号・2号窯はC-IVa式となる。C-II式が第II期第6小期に成立、C-IVa式が第IV期第3小期に成立している点は、事例を増やすだけで問題はない。今回の地区では、第II期第3小期前～第4小期の加賀山第2地点2号窯がB式であり、第II期第4小期～第5小期の同地点1号窯は不確かながらC-I式、第II期第5小期の加賀山第3地点1号窯もC-I式となるので、C-I式の成立は第II期第5小期となろう。しかし、古見川を挟み対岸の丘陵地にある第II期第4小期の殿田第3号窯はC-I式であることから(註3)、C-I式の成立時期に違いを認める。この相違については以前述べたところだが(註4)、端的に言

って、古見川を境として東西方面の丘陵地では、窯構造導入時期や窯操業時期に地域差異が認められる。これは、6世紀末から7世紀初頭に始まる窯業生産の再編成に深く関わっている。

今回の調査で加賀山第2地点2号窯が6世紀代と最も古いのが、加賀山地区ではその後、第II期第5小期には加賀山第3地点でも操業を始め、次いで第6小期では加賀山第1地点に移り行っている。対岸の古見地区では、第II期第6小期になって操業を開始しているので、窯場が拡大するのは第II期第5小期以降になってからかもしれない。

#### 註

1. 山村他：『大沢・川尻古窯跡調査報告書』1966 湖西町教育委員会
2. 後藤他：『西笠子第64号窯発掘調査報告書』1987 湖西市教育委員会
3. 嶋 他：『昭和54年度湖西市埋蔵文化財発掘調査概報』1980 湖西市教育委員会
4. 後藤建一：『湖西古窯跡群出土の須恵器と窯』『静岡県の窯業遺跡』1989

静岡県教育委員会



A) 加賀山第1地点作業風景



B) 加賀山第1地点完掘状態



A) 加賀山第1地点号窯1次面



B) 加賀山第1地点1号窯2次面



A) 加賀山第1地点2号窯



B) 加賀山第3地点1号窯





A) 加賀山第3地点1号窯階段部



B) 加賀山第2地点全景



A) 加賀山第2地点1号窯



B) 加賀山第2地点1号窯内遺物出土状態



A) 加賀山第 2 地点第 2 号窯



B) 加賀山第 2 地点土坑



A) 加賀山第2地点1号住居跡



B) 加賀山第2地点1号住居跡遺物出土状態



A) 加賀山第2地点2号住居跡



B) 加賀山第2地点2号住居跡遺物出土状態



A) 加賀山第2地点作業風景



B) 古見第14地点(手前)と古見第16地点遠景



A) 古見第14地点 (左1号窯・右2号窯)



B) 古見第14地点1号窯階段部



A) 古見第14地点2号窯 1A



B) 古見第14地点3, 4, 5, 6, 7号窯





A) 古見第14地点3号窯



B) 古見第14地点3号窯床面状態



A) 古見第14地点4号窯 (A)



B) 古見第14地点4号窯遺物出土状態



A) 古見第14地点7号窯



B) 古見第14地点7号窯階段部



A) 古見第16地点灰原範圍



B) 古見第16地点全景



A) 古見第16地点1号窯



B) 古見第16地点1号窯階段部



A) 古見第16地点2号窯と土坑



B) 16地点2号窯階段部



A) 古見第16地点2号窯前庭部



B) 古見第16地点Dライン灰層状態

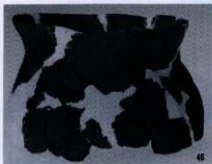
図版19 加賀山第1地点・同第2地点出土遺物(1)



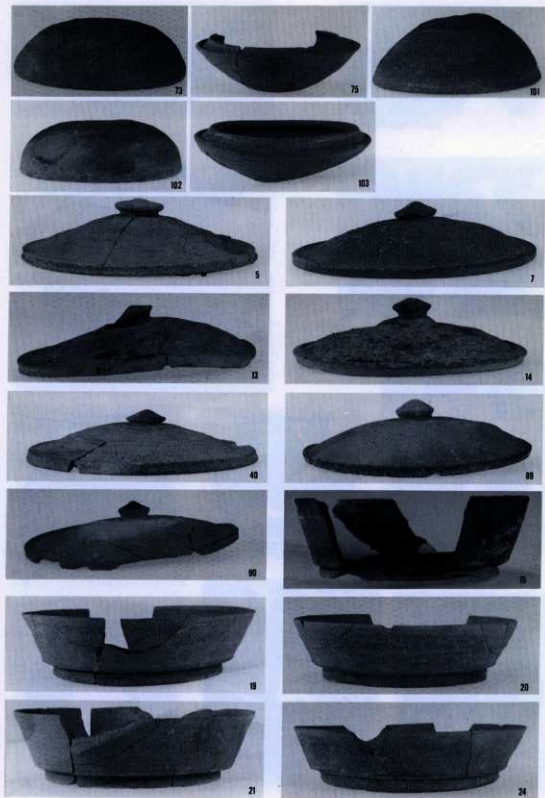




図版21 加賀山第2地点出土遺物(3)

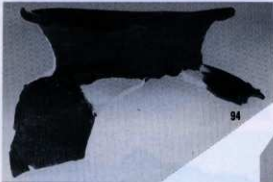


図版22 古見第14地点出土遺物(1)



図版23 古見第14地点出土遺物(2)





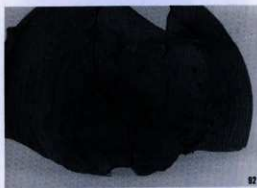
図版25 古見第16地点出土遺物(1)



図版26 古見第16地点遺物出土(2)



図版27 古見第16地点出土遺物(3)

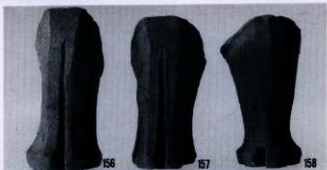












湖西市文化財調査報告第27集

加賀山第1～3地点・古見第14・16地点古窯跡  
発掘調査報告書

平成3年3月22日

編集 静岡県湖西市教育委員会  
発行 静岡県西部農林事務所  
静岡県湖西市教育委員会  
印刷 浜松共同印刷株式会社